

インターネットと政治、プライバシー、AI／ロボット — 2018年ワールド・
インターネット・プロジェクト日本チーム（JWIP）調査結果から

Internet and Politics, Privacy and AI/Robots: The Survey Results of the 2018
World Internet Project in Japan

小笠原盛浩	OGASAHARA, Morihiro	木村忠正	KIMURA, Tadamasa
石井健一	ISHII, Kenichi	遠藤薫	ENDO, Kaoru
橋元良明	HASHIMOTO, Yoshiaki	三上俊治	MIKAMI, Syunji

目次

0. 調査の概要	
0.1 JWIPの説明.....	小笠原 盛浩
0.2 調査方法概要.....	木村 忠正
1. インターネット利用の概況	
1.1 インターネット利用の有無（問2、問3、問6、問18）.....	小笠原 盛浩
1.2 インターネット接続環境（問4、問5）.....	小笠原 盛浩
1.3 インターネット上の情報収集活動（問8、問9）.....	橋元 良明
1.4 SNS等の利用（問7）.....	木村 忠正
1.5 コミュニケーション・コンテンツ共有（問10）.....	橋元 良明
1.6 オンラインゲーム・音楽利用（問11）.....	橋元 良明
1.7 インターネットバンキング／ショッピング（問13）.....	橋元 良明
1.8 インターネットリテラシー（問12）.....	橋元 良明
1.9 メディアへの信頼（問1）.....	石井 健一
2. インターネットと政治.....	木村 忠正
2.1 本章の問題意識	
2.2 OPOS-EC 研究調査の枠組	
2.3 OII 調査	
2.4 EC 度・政治的情報接触の国際比較	
2.5 MFT、SDO、VSA	
2.6 回帰分析	

3. インターネットとプライバシー.....	石井 健一
3.1 ネット上のプライバシー侵害経験（問 16、問 17）.	
3.2 関係流動性（問 19）	
3.3 対人関係におけるリスク回避傾向（問 20）	
3.4 ネット上のプライバシーに対する不安（問 21）.	
4. AI／ロボット.....	遠藤 薫
4.1 AI／ロボット知識度（問 24）	
4.2 AI／ロボットの社会的受容の予想（問 32、問 33）	
4.3 AI／ロボットへの期待・不安（問 26、問 27、問 31）	
4.4 AI／ロボットで代替される仕事（問 28、29）	
4.5 AI／ロボットと規制（問 25、問 30）	
<補足資料> 質問票と単純集計結果.....	三上 俊治

小笠原 盛浩	東洋大学社会学部
木村 忠正	立教大学社会学部
石井 健一	文教大学情報学部
遠藤 薫	学習院大学法学部
橋元 良明	東京大学大学院情報学環
三上 俊治	東洋大学名誉教授

本研究は、公益財団法人・放送文化基金 2017 年度研究助成「インターネット利用と社会的分断に関する国際比較研究」（代表・木村忠正）、公益財団法人・電気通信普及財団調査研究助成（2018-2019 年度）「ワールドインタネットプロジェクト研究」（代表・石井健一）、「学習院大学計算機センター2018 年度特別プロジェクト」（代表・遠藤薫）の助成により実施された。

0.1 JWIP について

本論文は、アメリカの USC を中心に世界 28 カ国と共同で取り組んでいる「ワールドインターネットプロジェクト (WIP)」の一環として、日本チームが 2018 年に実施した調査 (JWIP 調査) から得られた知見を報告するものである。WIP は 1999 年に米国の UCLA を中心に立ち上げられた国際共同研究プロジェクトである。2020 年現在、WIP には 28 カ国が参加しており、日本は 2000 年から正式に参加している。研究の目的は、国家や家庭にインターネット利用が広まるにしたがってどのような変化が生じているかを記録し、インターネットの社会的、政治的、経済的な影響を国際的かつ縦断的に明らかにすることである。そのため WIP はインターネット利用者・非利用者の比較などプロジェクト全体の問題関心にもとづいた共通質問を作成し、参加国が調査を実施する際に使用することとしている。2018 年 JWIP 調査ではこの WIP 共通質問と、日本独自の問題把握のためにインターネットと政治、プライバシー、AI・ロボットの関連に焦点を当てた JWIP 独自質問をたずねている。

0.2 調査方法概要

本研究の中核となる JWIP 調査は、日本全国人口比例による無作為抽出 60 地点におけるエリアサンプリング法により、18～69 歳男女を対象として、2018 年 11 月・12 月に留置訪問法で実査を行った。有効回答数 600。質問票は本論文末の単純集計表にあるが、WIP 共通質問と JWIP 独自質問を組み合わせている。

共通質問は、独自質問と切り離し、完全に独立させて訊くのではなく、独自質問と組合せ、ある質問において項目として含む場合もあるが、大きくは、単純集計表の間 1～6、8～13、15～17、21、22、42～47 が該当する。他方、独自質問は、大別して 3 つの問題意識にもとづいた質問項目から成り立つ。それらは、①社会的分断 (エコーチェンバー現象) を中心とする政治的情報行動と社会心理 (社会的支配志向性や道徳基盤理論等) との関係 (問 14、22、23、35～39)、②プライバシー意識等の情報行動と関係流動性などの対人関係心理との関連 (問 16、17、19～21)、③AI・ロボット等の新たな技術の社会的普及に関する意識 (問 24～33) に分かれ、本論文第 2 章から第 4 章にそれぞれ対応している。

1. インターネット利用の概況

1.1 インターネット利用の有無（問2、問3、問6）

2018年 JWIP 調査回答者のインターネット利用率（問2）は89.3%である。3.2%は3カ月以上前に利用していたが調査時点では利用を止め、7.5%はまったく利用経験がない。インターネット利用の有無を性・年齢層別に比較したものが表1.1.1である。男性の利用率92.1%に対して女性の86.6%は統計的に有意に低く、年齢層別では10・20代～40代が高く60代の64.1%が低い。男性の利用率が高い傾向はインターネット初期から続いており、若年層ほど利用率が高くなる傾向は薄まる一方、高齢者層が取り残されているようである。

調査回答者のネット利用期間（問6）の平均値は14.7年、性別では男性が15.4年、女性が13.9年であり有意に男性の方が長い（ $t(517)=2.68$, $p<0.01$ ）。

表 1.1.1 性別・年齢層別インターネット利用率

全体	性別		年齢層別				
	男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
89.3%	92.1%	86.6%*	98.1%	98.1%	95.7%	94.0%	64.1%***

χ^2 検定の結果、*: $p<0.05$ 、***: $p<0.001$

表中の黒太字は残差分析の結果5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

インターネットを利用していない理由について、インターネット利用経験有無別に最もあてはまる理由をまとめたものが表1.1.2である。統計的検定は行わないが、利用経験がない者は利用経験がある者と比べて「興味がない」「使い方がわからない」の比率が高い。

表 1.1.2 利用経験有無別・インターネットを利用しない理由

	興味がない	利用価値がない	使い方がわからない	接続機器がない	料金が低い	時間がない	その他
利用経験有 (n=19)	31.6%	15.8%	10.5%	10.5%	5.3%	15.8%	10.5%
利用経験無 (n=45)	42.2%	2.2%	26.7%	13.3%	2.2%	8.9%	4.4%

1.2 インターネット接続環境（問4、問5）

問5ではインターネットをどのような回線から接続しているかたずねている（表1.2.1）。携帯・スマートフォンからの接続率が81.3%と圧倒的に高く、友人・隣人宅、職場・学校が続く。海外で多いとみられる公衆Wi-fiやネットカフェからの接続率は低水準である。

問5ではインターネット接続に使う端末別の利用頻度を「1日数回」～「使っていない」の6件法で回答させている。回答を利用の有無に変換して利用率を比較したものが表1.2.2である。パソコンとスマートフォン・携帯電話の利用率は男性の方が女性より有意

に高い。年齢層別では60代のスマートフォン・携帯電話からのネット利用率が有意に低く、テレビからの接続は10代が多く60代が低い。

表 1.2.1 インターネット接続回線タイプ別利用率

携帯・スマホ回線	携帯・スマホ以外の回線	友人・隣人宅の回線	職場・学校	公衆Wi-fi	ネットカフェ等
81.3%	3.5%	31.2%	18.5%	3.5%	0.2%

表 1.2.2 インターネット接続端末利用率

	全体	性別		年齢層別				
		男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳
パソコン	83.3%	89.3%	76.8%***	86.7%	82.7%	79.8%	89.2%	78.0%
スマホ・携帯	96.6%	98.2%	94.9%*	100.0%	100.0%	99.2%	96.3%	84.2%***
タブレット	44.3%	48.1%	40.2%†	46.6%	50.5%	44.7%	41.4%	36.3%
テレビ	34.5%	35.1%	33.9%	50.5%	31.4%	36.8%	27.3%	23.1%**

χ^2 検定の結果、†:p<0.1、*:p<0.05、**:p<0.01、***:p<0.001

表中の黒太字は残差分析の結果5%水準で有意に高い値、赤太字は有意に低い値を表す。

次に、利用者限定して問5の回答結果を1カ月あたりの端末利用頻度に換算して比較したものが表1.2.3である。性別では男性の方がネット接続にパソコンを使う頻度が有意に高い。年齢層別では30～50代のパソコン利用頻度、10～40代のスマートフォン・携帯電話利用頻度が高い。タブレットからのネット利用頻度では60代の利用頻度が高いのは興味深い。

表 1.2.3 インターネット接続端末利用頻度（利用者限定）

	全体	性別		年齢層別					
		男性	女性	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	
パソコン	34.8	41.7	26.1***	21.7a	32.3ab	41.6b	42.4b	35.2ab	***
スマホ・携帯	67.2	68.0	66.4	73.3c	70.7bc	68.6bc	64.2b	54.4a	***
タブレット	26.2	29.6	21.8†	30.4ab	20.1a	20.1a	27.8ab	39.4b	*
テレビ	41.0	36.5	46.0†	44.2	44.3	33.6	40.8	44.8	

t検定（性別比較）・一元配置分散分析の結果 †:p<0.1、*:p<0.05、**:p<0.01、***:p<0.001

年齢層別比較の符号は、Tukeyの多重比較により同符号間では5%水準の有意差がないことを示す。

1.3 インターネット上の情報収集活動（問8、問9）

インターネットで人々はどのような情報収集活動を行っているのか、日常的な情報収集（問8）と、学習のためのネット利用（問9）に分けて、それぞれの利用頻度を性別、年齢層別に見ていく。

※なお、問 8、9 の回答選択肢は質問票上では以下のようにカテゴリー分けされている。

(1)1 日数回	(2)日に 1 回	(3)週に 1 回～数回	(4)月に 1 回～数回	(5)月に 1 回未満	(6)利用したことはない
----------	-----------	--------------	--------------	-------------	--------------

分析では、まず(1)～(5)のいずれかのうち、いずれかに○をつけた人(利用者)と(6)に○をつけた人(非利用者)に区分した。利用者の割合を「利用率」と記している。男女別、年齢層別での検定は、いずれも χ^2 検定である。

また、(1)～(6)を月ごとの利用頻度換算した数値で「月利用頻度」を算出した。その場合、(1)を月 75 回、(2)を月 30 回、(3)を月 10 回、(4)を月 2.5 回、(5)を月 0.5 回、(6)を月 0 回として計算した。月利用頻度の検定は、男女比較では t 検定、年齢層別比較では一元分散分析で F 検定(年齢層間では Tukey の多重範囲検定)による。

クロス集計および平均値の比較、分散分析の際、DK・NA 回答は削除している。

年齢層に関し、18 歳 19 歳の 10 代はサンプルが 18 と少なく、20 代と併せ「10・20 代」とした。

(1) ネットでの情報収集活動(利用率)

表 1.3.1 男女別、年齢層別にみたネットでの情報収集活動(利用率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
(地域、国内、国際)のニュースを知る	94.4%	94.2%	94.6%	ns	93.3%	98.1%	98.5%	89.0%	91.7%	**	536
旅行の情報を得る	80.6%	79.1%	82.2%	ns	78.1%	80.2%	81.8%	83.5%	78.6%	ns	536
求人情報を得る	41.6%	36.1%	47.5%	**	68.6%	49.1%	40.0%	29.4%	16.7%	***	534
健康についての情報を得る	75.5%	71.2%	80.2%	*	72.4%	78.3%	85.5%	73.4%	63.1%	**	535

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

ネットの利用内容について、問 8 で質問した項目の利用率を示したのが表 1.3.1 である。表に示される通り、「ニュースを知る」の利用率は全体の 94.4%であり、男女に有意差はない。年齢層別に見れば、40 代が有意に高く、50 代は有意に低い。

「旅行の情報を得る」の利用率は全体の 80.6%であり、男女別、年齢層別ともに有意差はない。

「求人情報を得る」の利用率は全体の 41.6%であり、男性より女性の方が有意に高い。年齢層別では 10・20 代が有意に高く、50 代、60 代で有意に低い。

「健康についての情報を得る」の利用率は全体で 75.5%、男性より女性の方が比率が高く、年齢層別では 40 代が有意に高く、60 代が有意に低い。40 代はいわゆる「働き盛り」だからかもしれない。

(2) 「ニュースを見る」で日に1回以上利用する人の割合

表 1.3.2 男女別、年齢層別にみた「ニュースを見る」(1日1回以上の比率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	
(地域、国内、国際の)ニュースを知る	69.6%	70.1%	69.0%	ns	61.9%	78.3%	74.2%	66.1%	65.5%	ns

表 1.3.1 の項目中、最も利用率の高かった「ニュースを見る」について、「1日1回以上美人の割合」を示したのが表 1.3.2 である。

表に示されるとおり、全体で1日1回以上見る人は69.6%いる。これに関して、男女別年齢層別ともに有意差はない。

(3) ネットでの情報収集活動(月ごとの利用頻度)

表 1.3.3 男女別、年齢層別にみたネットでの情報収集活動(月利用頻度)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
(地域、国内、国際の)ニュースを知る	42.1	42.7	41.4	ns	36.5 a	47.5 a	44.4 a	42.2 a	38.4 a	2.24ns
旅行の情報を得る	4.9	4.3	5.6	ns	6.6 a	4.3 a	6.3 a	3.9 a	2.6 a	1.59ns
求人情報を得る	2.1	1.5	2.7	ns	5.1 a	2.7 ab	0.7 b	1.2 b	0.7 b	4.11**
健康についての情報を得る	4.6	4.0	5.3	ns	5.5 a	6.1 a	4.6 a	3.0 a	3.8 a	1.47ns

数値は本節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女についてはt検定結果。年齢層別についてはF検定結果。数値右のabc..は、行ごとに横に見て、Tukeyの多重範囲検定で同符号間では危険率5%未満で有意な差がないことを示す。

月ごとの頻度でみると「ニュースを知る」は全体で月42.1回である。「旅行の情報を得る」以下の項目は、月ごとの頻度ではいずれも1桁である。いずれも男女差はなく、「求人情報を得る」については10・20代が他の年齢層より高頻度になっている。

(4) 学習のためのインターネット利用(利用率)

表 1.3.4 男女別、年齢層別にみた学習のためのネット利用(利用率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
言葉の意味・定義を調べる	91.0%	91.3%	90.7%	ns	95.2%	94.3%	95.5%	88.1%	78.3%	***	534
事実を調べたり、確認する	89.7%	90.2%	89.1%	ns	97.1%	95.3%	91.7%	84.4%	77.1%	***	534
学校の授業や勉強に関連する情報を得る	44.9%	43.6%	46.3%	ns	76.0%	51.4%	43.9%	38.9%	13.4%	***	532
学位を得たり、職場で必要なため、遠隔授業を受ける	13.5%	15.6%	11.3%	ns	23.1%	18.1%	12.9%	7.3%	4.9%	***	532

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

問9では「学校の授業のためや、学習のためのインターネット利用」について質問した。

まず、利用している人の割合を男女別、年齢層別に示したのが表 1.3.4 である。

「言葉の意味・定義を調べる」は全体の 91.0%の人が利用している。「事実を調べたり、確認する」も 89.7%と高い。「授業や勉強に関連する情報を得る」「学位を得たり、職場で必要なため、遠隔授業を受ける」などは、そもそも当該の行動が必要とされる人が限定されるため、利用率は低い。問 9 の 4 項目とも利用率に男女差はない。

一方、年齢層別に見れば、いずれの項目も、概して 10・20 代で利用率が高く、50 代 60 代で低くなっている。

(5) 学習のためのインターネット利用（月利用頻度）

表 1.3.5 男女別、年齢層別にみた学習のためのネット利用（月利用頻度）

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
言葉の意味・定義を調べる	17.7	18.2	17.1	ns	23.0 a	16.7 ab	17.8 ab	17.0 ab	12.9 bc	2.10ns
事実を調べたり、確認する	18.8	20.6	16.8	ns	27.8 a	16.5 b	19.8 ab	17.6 b	10.1	6.26***
学校の授業や勉強に関連する情報を得る	7.1	7.5	6.6	ns	20.1 a	7.4 b	3.5 b	3.1 b	1.3 b	23.18***
学位を得たり、職場で必要なため、遠隔授業を受ける	2.2	1.8	2.6	ns	5.5 a	3.0 ab	1.4 ab	1.1 b	0.0 b	3.61**

数値は本節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女については t 検定結果。年齢層別については F 検定結果。数値右の abc.. は、行ごとに横に見て、Tukey の多重範囲検定で同符号間では危険率 5%未満で有意な差がないことを示す。

月ごとの頻度で見ると「言葉の意味・定義を調べる」が全体で月 17.7 回、「事実を調べたり、確認する」が 18.8 回となっている。その他の項目も含め、いずれの項目も男女差はない。年齢層別に見れば、「言葉の意味・定義を調べる」以外、有意差があり、10・20 代が最も高頻度で利用している。

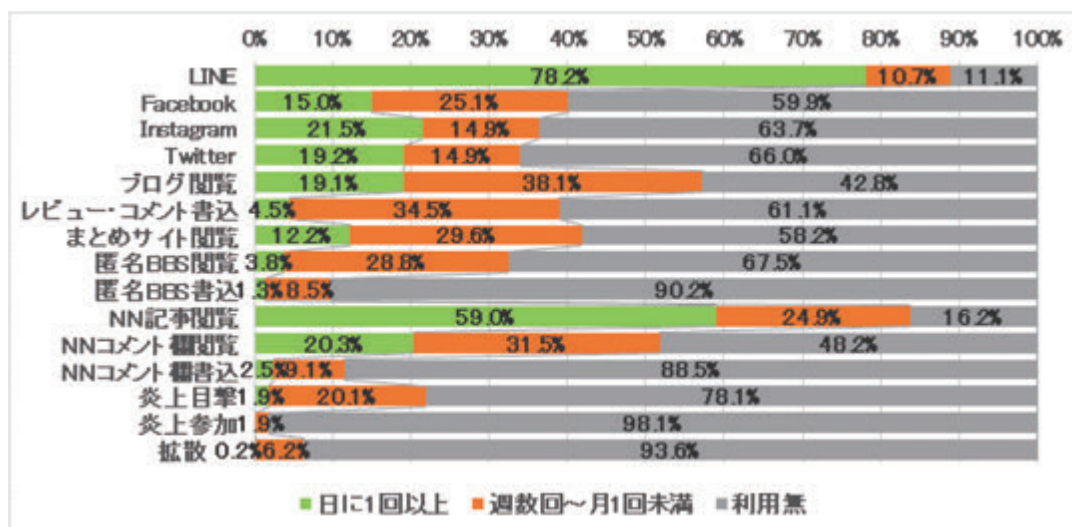
1.4 SNS 等の利用

21 世紀は「ソーシャルメディアの時代」と呼ぶこともできよう。本調査では、ソーシャルメディアに関連した問 7 において、図 1.4.1 にある 15 項目の利用をたずねた。単純集計表にあるように、利用（頻度）／非利用について、「回数回」「日 1 回」「週 1 回～回数」「月 1 回～回数」「月 1 回未満」「利用しない」の 6 選択肢だが、図 1.4.1 では、「日に 1 回以上」「週回数～月 1 回未満」「非利用」の 3 カテゴリーに分けて示す。

この 15 項目について、性年代別の観点から、表 1.4.1 をもとに概観しよう。LINE、Facebook、Instagram、Twitter の SNS 利用をみると、LINE が突出し、幅広い年代、男女を問わず普及している。全体¹の 9 割が利用し、利用者の 9 割近くが「1 日 1 回以上」利用と、日本社会のコミュニケーション手段として広く深く浸透していることが分かる。

¹ 本項では、回答者母数はネット利用者（非利用者は除く）であり、「全体」とは「ネット利用者全体」を指す。

図 1.4.1 ソーシャルメディア利用（問 7）15 項目の利用率



NN=ネットニュースサイト・アプリ

表 1.4.1 ソーシャルメディア利用（問 7）15 項目の性年代別利用率

	20男		20女		30男		30女		40男		40女		50男		50女		60男		60女		χ^2
	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	
LINE	98.1	1.9	94.1	5.9	81.5	14.8	88.5	7.7	79.4	14.7	84.1	6.3	65.5	12.7	83.0	9.4	46.7	15.6	47.4	21.1	***
Facebook	18.5	35.2	11.8	35.3	20.8	24.5	17.3	40.4	18.8	23.2	19.0	20.6	10.9	21.8	11.3	17.0	15.6	22.2	0.0	7.9	***
Instagram	46.3	14.8	54.9	17.6	13.0	13.0	25.0	30.8	11.6	18.8	27.4	14.5	7.3	10.9	17.0	11.3	2.3	9.3	5.3	2.6	***
Twitter	57.4	18.5	51.0	17.6	9.3	20.4	15.4	19.2	11.6	14.5	21.3	19.7	5.5	7.3	11.3	7.5	4.4	17.8	0.0	2.6	**
ブログ閲覧	25.9	27.8	19.6	54.9	18.5	48.1	19.2	51.9	23.5	29.4	20.0	45.0	14.8	37.0	17.0	37.7	15.2	26.1	13.2	18.4	**
レビュー・コメント書込	3.7	29.6	11.8	31.4	5.6	33.3	3.8	51.9	4.3	39.1	3.2	40.3	3.6	29.1	3.8	30.2	2.2	28.3	2.6	26.3	
まとめサイト閲覧	22.2	35.2	29.4	37.3	18.5	37.0	11.5	44.2	10.3	32.4	6.5	29.0	9.1	27.3	5.7	22.6	4.3	17.4	2.6	5.3	***
匿名BBS閲覧	16.7	29.6	3.9	35.3	7.4	38.9	1.9	28.8	2.9	35.3	0.0	35.5	1.8	30.9	1.9	22.6	0.0	15.6	0.0	2.6	***
匿名BBS書込	0.0	16.7	0.0	11.8	3.7	13.0	1.9	3.8	1.5	10.4	1.6	4.8	1.8	10.9	0.0	1.9	2.2	6.7	0.0	2.6	
NN記事閲覧	56.6	24.5	60.8	17.6	66.7	24.1	66.7	25.5	72.5	21.7	54.8	24.2	55.6	25.9	55.6	27.8	50.0	30.4	40.5	29.7	
NNコメント欄閲覧	24.5	34.0	25.5	25.5	26.4	39.6	21.2	34.6	27.5	29.0	12.9	32.3	21.8	30.9	17.0	32.1	13.3	31.1	7.9	23.7	
NNコメント欄書込	3.8	17.0	0.0	6.0	5.7	13.2	1.9	5.8	2.9	18.8	0.0	1.6	1.9	9.3	5.7	3.8	2.2	11.1	0.0	0.0	*
炎上目撃	7.4	37.0	5.9	29.4	0.0	31.5	0.0	25.0	0.0	22.1	0.0	8.1	0.0	20.0	3.8	9.4	0.0	10.9	2.6	2.6	***
炎上参加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	*
拡散	0.0	18.5	2.0	5.9	0.0	7.4	0.0	5.8	0.0	7.4	0.0	4.8	0.0	3.7	0.0	3.8	0.0	2.2	0.0	0.0	

A 列=日に 1 回以上、B 列=週に数回~月 1 回未満、 χ^2 列: *** $p \leq 0.001$, ** $p \leq 0.01$, * $p \leq 0.05$

Facebook、Twitter、Instagramを比較すると、Facebookは年代、性別による差異が小さく、「月1回未満」が利用者の4分の1と、とりあえず登録し、たまにアクセスする人も多いのに対して、Twitter、Instagramは共通して、日に1回以上が双方とも20代では5割を超え、30代以上では2割前後以下と、20代利用が際立っている。但し、Twitterの場合、年代毎に男女で利用率にさほど大きな差がないのに対して、Instagramは30代、40代、50

代と女性の利用が高い。このように、SNS は、性年代によって利用率が大きく異なり、それぞれに大きな特徴がみられる。

ブログ閲覧、レビュー・コメント書込をみると、ブログ閲覧は全体で6割近く、レビュー・コメント書込も4割程度に達し、性年代でみても、広い年代に利用が広がっている。また、レビュー・コメントは、閲覧ではなく、書込が4割に上り、しかも、女性の方が男性よりも各年代で多い傾向を持つ。

ネット炎上との関連において重要となる、まとめサイト閲覧、匿名 BBS 閲覧の利用もまた社会的に広がっている。例えば、まとめサイト閲覧は、全体で4割、20代、30代では半数を越え、50代女性でも3割近い。また、ネットニュース（NN）閲覧、コメント欄閲覧、書込をみると、NN サイト・アプリが主要なニュース接触チャンネルとなっていること（全体の84%程度、30代男女、40代男性で9割以上、60代女性7割で、他は8割前後、「日に1回以上」も全体で6割近い）、半数以上（記事閲覧者の6割以上）がコメント欄を閲覧し、12%程度の人々がコメント欄に書込んでいる。このように、人々がネットで情報発信を行い、閲覧することが、日常生活に広範に浸透しており、ネット世論（ニュースに対するソーシャルメディア上の意見・態度の社会的分布）が生成、展開される素地を形成していると考えられる。

他方、「ネット炎上」について、炎上目撃は、全体で2割を越えるが、年代による差が大きい。また、Twitter 利用者の炎上目撃率が40%に対して、非利用者の目撃率は13%と、Twitter 利用が20代中心に広がっていることと炎上目撃とは強く関連している。「炎上参加」は、全体として2%に満たず、30代～60代男性のみである。「拡散（参加）」については、全体として6%だが、20代男性が18.5%と突出している。これは、炎上目撃と同様、Twitter との相関性が高く、Twitter 利用者が17%に対して、非利用者は1%に過ぎない。「炎上」「拡散」は、社会的な問題ではあるが、Twitter 利用者中心の現象であり、実際の関与者も限定的である。

1.5 コミュニケーション・コンテンツ共有（問10）

インターネット上でコミュニケーションしたり、コンテンツを創作・共有したりするようなことをどの程度するかを質問したのが問10である。

※なお、問10の回答選択肢は問8、9と同様、質問票上では以下のようにカテゴリー分けされている。

(1)1日数回	(2)日に1回	(3)週に1回～数回	(4)月に1回～数回	(5)月に1回未満	(6)利用したことはない
---------	---------	------------	------------	-----------	--------------

分析では、まず(1)～(5)のいずれかのうち、いずれかに○をつけた人(利用者)と(6)に○をつけた人(非利用者)に区分した。利用者の割合を「利用率」と記している。男女別、年齢層別での検定は、いず

れも χ^2 検定である。

また、(1)～(6)を月ごとの利用頻度換算した数値で「月利用頻度」を算出した。その場合、(1)を月75回、(2)を月30回、(3)を月10回、(4)を月2.5回、(5)を日0.5回、(6)を月0回として計算した。月利用頻度の検定は、男女比較では t 検定、年齢層別比較では一元分散分析で F 検定（年齢層別には Tukey の多重範囲検定）による。

クロス集計および平均値の比較、分散分析の際、DK・NA 回答は削除している。

年齢層に関し、18歳19歳の10代はサンプルが18と少なく、20代と併せ「10・20代」とした。

(1) コミュニケーション・コンテンツ共有（利用率）

表 1.5.1 男女別、年齢層別にみたコミュニケーション・コンテンツ共有（利用率）

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
メールを利用する	94.0%	93.9%	94.2%	ns	90.4%	97.2%	95.5%	99.1%	85.7%	***	535
ダイレクトメッセージを送る・チャットをする	45.4%	47.1%	43.5%	ns	70.2%	52.8%	46.9%	32.1%	19.5%	***	531
インターネットで電話をかけたり、受けたりする	61.0%	58.5%	63.7%	ns	72.8%	64.8%	57.6%	64.2%	42.9%	***	533
自分の作成したコンテンツ(映像、写真、文章など)をネットに投稿(アップ)する	31.5%	29.5%	33.7%	ns	52.4%	34.9%	32.6%	22.0%	11.9%	***	536
他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする	29.3%	31.3%	27.1%	ns	54.3%	30.2%	28.0%	22.0%	8.3%	***	536

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

ネットでのコミュニケーション・コンテンツ共有利用内容について、問10で質問した項目の利用率を示したのが表1.5.1である。表に示される通り、「メールを利用する」は全体の94.0%であり、男女に有意差はない。年齢層別に見れば、50代が有意に高く、60代は有意に低い。

「ダイレクトメッセージを送る・チャットをする」の利用率は全体の45.4%であり、男女別には有意差がなく、年齢層別では10・20代が高く、50代60代では比率が低くなっている。

「インターネットで電話をかけたり、受けたりする」の利用率は全体の61.0%であり、男女差はなく、年齢層別では10・20代が有意に高く、60代で有意に低い。

「自分の作成したコンテンツ(映像、写真、文章など)をネットに投稿(アップ)する」の利用率は全体で31.5%、男女差はなく、年齢層別では10・20代が有意に高く、50代、60代が有意に低い。

「他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする」の利用率は全体で29.3%、男女差はなく、年齢層別では10・20代が有意に高く、60代が有意に

低い。

(2) 「メールを利用する」で日に1回以上利用する人の割合

表 1.5.2 男女別、年齢層別にみた「メールを利用する」(1日1回以上の比率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	
メールを利用する	60.6%	62.8%	58.1%	ns	53.8%	63.2%	65.9%	65.1%	51.2%	ns

表 1.5.1 の項目中、最も利用率の高かった「メールを利用する」について、「1日1回以上利用する人の割合」を示したのが表 1.5.2 である。

表に示されるとおり、1日1回以上利用する人は全体で60.5%いる。これに関して、男女別年齢層別ともに有意差はない。

(3) コミュニケーション・コンテンツ共有(月ごとの利用頻度)

表 1.5.3 男女別、年齢層別にみたコミュニケーション・コンテンツ共有(月利用頻度)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
メールを利用する	42.5	44.1	40.9	ns	36.2 a	44.2 a	45.4 a	46.8 a	38.3 a	2.04ns
ダイレクトメッセージを送る・チャットをする	11.1	13.6	8.5	*	18.3 a	12.5 ab	11.8 ab	6.4 b	5.6 b	4.62**
インターネットで電話をかけたり、受けたりする	13.6	12.4	14.9	ns	19.0 a	14.5 ab	12.8 ab	12.0 ab	9.0 b	2.17ns
自分の作成したコンテンツ(映像、写真、文章など)をネットに投稿(アップ)する	3.3	3.8	2.6	ns	5.6 a	2.4 a	4.1 a	2.1 a	1.6 a	2.05ns
他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする	3.2	3.3	3.0	ns	10.2 a	0.9 b	2.7 b	0.8 b	1.1 b	12.25***

数値は本節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女についてはt検定結果。年齢層別についてはF検定結果。数値右のabc..は、行ごとに横に見て、Tukeyの多重範囲検定で同符号間では危険率5%未満で有意な差がないことを示す。

月ごとの頻度でみると「メールを利用する」は全体で月42.5回である。「ダイレクトメッセージを送る・チャットをする」は11.1回、「インターネットで電話をかけたり、受けたりする」は13.6回であった。それ以外の項目は、月ごとの頻度ではいずれも1桁である。男女を比べると「ダイレクトメッセージを送る・チャットをする」だけが有意差があり、女性より男性の方が高頻度であった。年齢層別では、「ダイレクトメッセージを送る・チャットをする」「他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする」において有意差があり、いずれも10・20代が高頻度であった。

1.6 オンラインゲーム・音楽利用(問11)

(1) オンラインゲーム・音楽利用(利用率)

問11ではゲームや音楽の利用等について質問した。

まず、利用している人の割合を男女別、年齢層別に示したのが表 1.6.1 である。

表 1.6.1 男女別、年齢層別にみたオンラインゲーム・音楽利用(利用率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	全体N
ネットでゲームをする	65.3%	66.1%	64.5%	ns	86.7%	82.1%	71.5%	48.1%	29.8%	533
ネットで音楽を聴いたりダウンロードしたりする	71.7%	72.6%	70.8%	ns	92.4%	83.0%	74.0%	56.5%	47.6%	534
動画配信サイト(Netflix, Amazon Prime Videoなど)を見たりダウンロードしたりする	51.4%	53.8%	48.8%	ns	70.2%	58.5%	49.2%	45.0%	31.0%	535
動画投稿サイト(YouTubeなど)を見たりダウンロードしたりする	80.2%	83.0%	77.1%	ns	97.1%	93.4%	81.1%	73.4%	50.0%	535
インターネット放送局(AbemaTVなど)の番組を見る	35.2%	39.4%	30.7%	*	51.9%	37.1%	34.1%	31.2%	19.0%	534
テレビ見逃し配信サービス(TVer, FODなどで番組を見る)	29.9%	26.3%	33.9%	ns	41.9%	27.4%	27.5%	32.1%	19.0%	535
宗教・スピリチュアル関連のコンテンツを見る	7.1%	6.5%	7.8%	ns	9.5%	8.6%	8.3%	5.6%	2.4%	534
ネットでギャンブルしたり、宝くじを購入する	6.5%	9.0%	3.9%	*	5.7%	6.6%	9.8%	4.6%	4.8%	536
アダルト系コンテンツを見る	16.1%	28.6%	2.7%	**	17.3%	23.8%	16.7%	11.0%	10.7%	534
マッチングアプリ・サイトを見る	3.4%	4.4%	2.3%	ns	6.7%	2.9%	3.8%	1.8%	1.2%	533

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

全体で「ネットでゲームをする」が65.3%、「ネットで音楽を聴いたりダウンロードしたりする」が71.7%、「動画配信サイトを見たりダウンロードしたりする」が51.4%、「動画投稿サイトを見たりダウンロードしたりする」が80.2%にも達する。

その他で「インターネット放送局の番組を見る」が全体で35.2%、「見逃し配信サービスで番組を見る」が29.9%でそれぞれ3分の1の人が利用している。

男女別で見れば、「インターネット放送局の番組を見る」「アダルト系コンテンツを見る」「ネットでギャンブル・宝くじ」において、女性より男性の方が利用率が高い。

年齢層別にみれば、多くの項目で有意差があり、10・20代の利用率が高く、50代、60代の利用率が低くなっている。

(2) オンラインゲーム・音楽利用(月利用頻度)

月ごとの頻度で見ると「ネットでゲームをする」が全体で月25.9回、「動画投稿サイトを見たりダウンロードしたりする」が22.5回等となっている。

「動画配信サイト」「動画投稿サイト」「インターネット放送局」「アダルト系コンテンツ」については、女性より男性の利用率が高い。

年齢層別に見れば、多くの項目で10・20代の利用頻度が高く、50代、60代の利用頻度が低くなっている。

表 1.6.2 男女別、年齢層別にみたオンラインゲーム・音楽利用(月利用頻度)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
ネットでゲームをする	25.9	27.9	23.7	ns	39.3 a	36.2 ab	25.4 bc	19.2 c	5.7 d	17.6***
ネットで音楽を聴いたりダウンロードしたりする	17.7	18.8	16.5	ns	42.3 a	18.1 b	12.9 ab	8.9 ab	5.2 c	35.45***
動画配信サイト(Netflix, Amazon Prime Videoなど)を見たりダウンロードしたりする	9.9	12.8	6.8	***	17.8 a	11.4 ab	9.6 bc	6.5 bc	3.2 c	7.35***
動画投稿サイト(YouTubeなど)を見たりダウンロードしたりする	22.5	26.9	17.8	***	40.2 a	28.6 b	19.7 bc	14.3 cd	8.2 d	20.91***
インターネット放送局(AbemaTVなど)の番組を見る	4.6	6.1	2.8	**	9.2 a	4.9 ab	3.2 b	3.4 b	1.9 b	3.94**
テレビ見逃し配信サービス(TVer, FODなどで)番組を見る	2.2	2.4	2.0	ns	5.3 a	1.7 b	2.0 b	1.3 b	0.2 b	5.41***
宗教・スピリチュアル関連のコンテンツを見る	0.3	0.2	0.5	ns	0.4 a	0.5 a	0.5 a	0.1 a	0.1 a	0.68ns
ネットでギャンブルしたり、宝くじを購入する	0.3	0.4	0.2	ns	0.2 a	0.3 a	0.5 a	0.1 a	0.4 a	0.79ns
アダルト系コンテンツを見る	1.3	2.4	0.1	***	1.4 ab	2.7 a	1.4 ab	0.5 ab	0.1 c	2.21ns
マッチングアプリ・サイトを見る	0.4	0.5	0.4	ns	0.9 a	0.8 a	0.3 a	0.0 a	0.0 a	0.76ns

数値は 1.5 節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女については t 検定結果。年齢層別については F 検定結果。数値右の abc.. は、行ごとに横に見て、Tukey の多重範囲検定で同符号間では危険率 5%未満で有意な差がないことを示す。

1.7 インターネットバンキング／ショッピングの利用 (問 13)

(1) インターネットバンキング／ショッピングの利用 (利用率)

表 1.7.1 男女別、年齢層別にみたインターネットバンキング／ショッピングの利用 (利用率)

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
製品についての情報を得る	88.4%	87.7%	89.1%	ns	90.5%	96.2%	92.4%	83.3%	76.2%	***	535
商品を購入する	80.4%	78.8%	82.2%	ns	82.9%	93.4%	86.4%	77.1%	56.0%	***	536
旅行の予約をする	57.2%	56.0%	58.5%	ns	59.0%	61.3%	59.3%	56.0%	47.0%	ns	535
請求書の支払いをする／銀行オンラインサービスを利用する	36.8%	41.4%	31.8%	*	41.9%	39.6%	43.2%	31.2%	23.8%	*	536
株式、債券などの金融取引をする	12.0%	16.5%	7.0%	**	9.5%	5.7%	17.6%	12.8%	13.1%	ns	535
商品の価格やサービスの料金を比較する	68.2%	69.0%	67.4%	ns	63.5%	78.3%	75.8%	63.3%	56.0%	**	535
ネットでモノや情報売る	23.9%	26.3%	21.3%	ns	35.2%	22.6%	29.5%	19.3%	8.3%	***	536

※数値は利用している人の割合。アスタリスクは、各属性(性別、年齢層)×各回答[利用する人/利用しない人]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果 5%水準(両側検定)で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

問 13 ではインターネットバンキング／ショッピングの利用等について質問した。

まず、利用している人の割合を男女別、年齢層別に示したのが表 1.7.1 である。

全体で「製品について情報を得る」が 88.4%、「商品を購入する」が 80.4%、「商品の価格やサービスの料金を比較する」が 68.2%にも達する。

そのほかに「旅行の予約をする」が全体で 57.2%、「請求書の支払いをする／銀行オンラ

インサービスを利用する」が 36.8%でそれぞれかなり高い比率を示している。

男女別で見れば、「請求書の支払いをする／銀行オンラインサービスを利用する」「株式・債権などの金融取引をする」において女性より男性の利用率が高い。

年齢層別にみれば、ほとんどの項目で有意差があり、概して 30 代、40 代の利用率が高く、60 代の利用率が低くなっている。10・20 代の利用率は「ネットでモノや情報を売る」以外、他の年齢層に比べ、いずれの項目もさほど高くない。

(2) インターネットバンキング／ショッピングの利用（月利用頻度）

表 1.7.2 男女別、年齢層別にみたインターネットバンキング／ショッピングの利用
（月利用頻度）

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代	F値
製品についての情報を得る	12.0	12.0	11.9	ns	15.6 a	12.6 ab	14.3 ab	8.5 ab	7.5 b	3.22*
商品を購入する	3.5	3.5	3.4	ns	5.0 a	3.3 a	4.0 a	2.5 a	2.1 a	2.16ns
旅行の予約をする	0.8	0.7	0.8	ns	1.5 a	0.5 a	0.7 a	0.5 a	0.7 a	1.27ns
請求書の支払いをする／銀行オンラインサービスを利用する	1.7	1.9	1.4	ns	2.6 a	1.9 a	1.5 a	1.1 a	1.2 a	0.79ns
株式、債券などの金融取引をする	0.7	0.8	0.6	ns	0.3 a	0.8 a	0.5 a	0.7 a	1.4 a	0.69ns
商品の価格やサービスの料金を比較する	4.1	5.1	2.9	*	4.8 a	4.7 a	4.1 a	4.1 a	2.3 a	0.83ns
ネットでモノや情報を売る	1.5	1.9	1.0	ns	1.5 a	1.4 a	1.8 a	1.4 a	1.1 a	0.12ns

数値は 1.5 節冒頭に示した換算方法による月ごとの利用頻度。男女については t 検定結果。年齢層別については F 検定結果。数値右の abc.. は、行ごとに横に見て、Tukey の多重範囲検定で同符号間では危険率 5%未満で有意な差がないことを示す。

月ごとの頻度で見ると「製品についての情報を得る」が全体で月 12.0 回で、それ以外の項目は 1 桁である。

男女別に見れば、「商品の価格やサービスの料金を比較する」だけが有意差があり、女性より男性の方が頻度が高い。

問 13 の各項目を年齢層別にみれば、「製品について情報を得る」で若年層の頻度が高いのを除き、いずれも年齢層別に有意差はない。

1.8 インターネットリテラシー（問 12）

問 12 では各種のインターネット利用に関するリテラシーを質問した。

質問の回答選択肢は「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「どちらともいえない」「まああてはまる」「あてはまる」の 5 択であったが、この節の分析では、「あてはまる（「あてはまる」と「まああてはまる」を合算）」とそれ以外の「あてはまらない」の 2 値に分けた。

表 1.8.1 に示される通り、「ダウンロードしたファイルの開き方を知っている」と答えた人は全体の 63.4%、「アプリをスマートフォンなどのモバイル木岐にダウンロードするやり

方を知っている」と答えた人は 58.1%、「オンライン検索するのに最適のキーワードを考えるのは簡単」と答えた人は 49.7%であった。一方、「インターネット上のコンテンツをシェア（共有）する相手を変えるやり方を知っている」と答えた人は 24.3%、「コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている」と答えた人は 18.4%にとどまった。

いずれの項目も男女に有意差はない。

表 1.8.1 男女別、年齢層別にみたインターネットリテラシー（該当者の比率）

	全体	男性	女性		10・20代	30代	40代	50代	60代		全体N
ダウンロードしたファイルの開き方を知っている。	63.4%	64.4%	62.4%	ns	76.2%	73.6%	59.8%	53.2%	53.6%	***	536
オンライン検索するのに最適のキーワードを考えるのは簡単である。	49.7%	48.7%	50.8%	ns	65.7%	57.5%	45.0%	41.3%	38.1%	***	535
インターネット上のコンテンツをシェア（共有）する相手を変えるやり方を知っている。	24.3%	25.3%	23.2%	ns	40.0%	29.5%	20.9%	17.4%	12.0%	***	531
コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている。	18.4%	19.1%	17.5%	ns	21.9%	24.5%	15.3%	13.8%	16.9%	ns	534
アプリをスマートフォンなどのモバイル機器にダウンロードするやり方を知っている。	58.1%	57.8%	58.5%	ns	75.2%	69.8%	55.7%	46.8%	40.5%	***	535

※数値はあてはまると答えた人の割合。アスタリスクは、各属性（性別、年齢層）×各回答 [あてはまる／あてはまらない] のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果 5%水準（両側検定）で数値が黒太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

年齢層別にみて、「コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている」以外の項目では有意差があり、いずれも 10・20 代の該当率が高く、50 代、60 代の該当率が低い。

1.9 メディアへの信頼（問 1）

インターネット、テレビ、新聞の各々の信頼度を測定した結果が表 1.9.1 である。このうち、インターネットの質問だけが、もともとの WIP の共通項目であり、テレビと新聞は、比較のために日本チームの質問文において追加されたものである。インターネットと他のメディアを比べると、インターネットにおいて「大部分」の比率が 20%以上少なくなっており、テレビや新聞に比べてインターネットへの信頼度が著しく低いことがわかる。

結果を見やすく比較するため、「全部」と「大部分」の合計比率を「信頼率」として、各メディアに対する信頼の比率を性別、年齢グループ別に求め、カテゴリー間に統計的な有意差があると言えるかどうか、カイ 2 乗検定をおこなった。男女別の差をみたところ、テレビのみで統計的な有意差がみられた。女性の方が男性よりもテレビを信頼する傾向がある。また、年齢層による差をみたところ、年齢が高くなるほど信頼度が高くなるという傾向が、インターネットとテレビについて見られた。なお、インターネットへの信頼とインターネットの利用時間の間には統計的に有意な関係は見られなかった。インターネットを信頼している人のインターネット利用時間（1 日あたり）は 37.6 分 (N=102) であるのに対

して、信頼していない人のインターネット利用時間は 41.9 分 (N=497) であるが、分散分析の結果は統計的に有意な差は見られなかった ($F=0.263$, $p=0.608$)。つまり、インターネットの利用時間とインターネットへの信頼とは関係がないといえる。

表 1.9.1 メディアへの信頼 (%、N=600)

	まったくくない	一部	半々くらい	大部分	全部
インターネット	3.8	23.7	55.5	15.2	1.8
テレビ	1.0	12.8	42.2	40.8	3.2
新聞	2.8	9.2	26.5	56.2	5.3

表 1.9.2 男女別のメディアへの信頼率

	男性	女性	X^2
インターネット	16.6%	17.4%	.085
テレビ	45.5%	54.5%	4.49 *
新聞	59.9%	63.1%	.630

表 1.9.3 年齢別のメディアへの信頼率

	10-20 代	30-40 代	50-60 代	X^2
インターネット	9.3%	16.7%	20.6%	6.79 *
テレビ	38.3%	40.2%	50.2%	6.67 *
新聞	59.9%	63.1%	61.5%	0.630

2. インターネット利用と社会的分断

2.1 本章の問題意識

2010年代、スマートフォンが普及し、Facebook、TwitterなどのSNSやYouTubeなどの動画共有サイトの利用がグローバルに拡大するに従い、ソーシャルメディアと政治的活動との関係についての関心、議論が高まってきた。2011年からの「アラブの春」を巡っては、「ソーシャルメディア革命」論（ソーシャルメディアが独裁政権維持を困難にし、民主主義革命を促す）といった立場も主張されたが、2016年のアメリカ大統領選挙を契機に、分断化、部族主義、世論操作、民主主義の危機などに焦点があたるようになってきた。

本章で報告する研究（「ネット世論研究」、以下、OPOS（"Online Public Opinion Study"の略、「オーポス」と読ませる）は、本論文全体の基盤となるJWIP調査を含み拡張したもので、ネット世論形成に関連する情報行動と政治的態度との関係を、社会的支配志向性や道徳基盤等の社会心理的尺度との連関で分析することを目的とした大規模な調査研究プロジェクトである。本章では、そのOPOSの一部として、「エコーチェンバー」現象（個人が自らの嗜好性に適合的情報のみに接し社会的分断が進展する現象、以下、「EC現象」「EC効果」と表記することもある）の観点から、情報行動と政治的態度との関係を国際比較し、日本社会の現状を分析、把握することにしたい（以下、本章で展開する研究は、「OPOS-EC研究」と表記する）²。

2.2 OPOS-EC 研究調査の枠組

WIPの中心的メンバーであり、OII（Oxford Internet Institute）所長を務めたWilliam Duttonが、ミシガン州立大学 Quello Center で実施したプロジェクト Quello Search Project: “The Part Played by Search in Shaping Political Opinion”（以下、「QSP」と表記）は、EC現象を含む、政治行動・態度・意見と検索行動・ネット行動との関係に関するオンライン調査を、2017年1月欧米7カ国（米英仏独伊西ポーランド）で実施した（Dutton et al. 2017）。各国とも18歳以上、無作為抽出による設計サンプル約2000名である。さらに、この国際比較調査を踏まえ、OIIのDuboisとBlankは、2017年12月英在住ネット利用者無作為抽出2000名を対象として同様の調査を行った（Dubois and Blank 2018）。以下、2017年1月7か国調査は「QSP調査」、12月のイギリス調査は「OII調査」と表記する。

他方、木村（2018：第10章）は、ネット世論に関して、Twitter、5ちゃんねる、ニュ

² OPOS-EC研究は、（公益）放送文化基金2017年度研究助成を受けており、放送文化基金への報告書が、本章の元となっている。基金報告書は基金のホームページで公開されるが、紙幅の制約から本章の一部のみとなっていることを予めご承知おきいただきたい。

ースサイトコメントなどの大量なソーシャルデータをもとに計量テキスト分析を進めるに伴い、政治的投稿に、道徳的価値観（善悪、正誤、正義・不義といった道徳的判断）が強く働いていることに着目し、道徳心理学的理論をもと、ネット世論関係の情報行動との関係を考究している。

こうした既存の研究を踏まえ、OPOS-EC 研究では、オフラインの JWIP 調査とともに、オンライン調査を設計、実施した。以下、オフライン JWIP 調査を、「(JWIP) 留置調査」、オンライン調査を「(JWIP) ウェブ調査」と表記する。留置調査は紙幅の関係から OPOS-EC 研究中心に絞り込み、他の OPOS 研究に関する質問はウェブ調査で行っている。OPOS-EC について、同じ質問項目をオフライン、オンライン両調査で行うことにより、ウェブ調査の偏りについて分析し、OPOS 研究全体に反映させることも意図している。

JWIP 留置調査において、EC 関連独自質問項目は、①QSP における EC 関係の質問文（QSP をもとに JWIP に合わせて翻案）（問 14、23）、②MFT（Moral Foundations Theory、道徳基盤理論）（問 35、37）、③SDO（Social Dominance Orientation、社会的支配志向性）（問 39）、④VSA（Very Short Authoritarianism、RWA（Right Wing Authoritarianism）からの発展形の一つ）（問 38）である。

他方、JWIP ウェブ調査は、2018 年 10 月、ウェブ調査会社のモニター17～69 歳男女を対象とし実施した。有効回答数 1500。地域に関して、関東、東海、関西の 3 地域で人口比に対応して、それぞれ 5 割、2 割、3 割となるよう割付け、さらに、それぞれの地域で、10 代～60 代の 6 区分（但し 10 代のみ他の世代の 5 分の 3）、男女で均等になるよう割り付けた。留置調査でたずねた①～④の質問文は同様である。

ここでは、①～④について、簡略ではあるが具体的に説明する。

① OII 調査では、政治分野のニュース、情報、議論に接するときへの対応として、A) 自分には同意できない情報・報道・意見に目を通すこと（Disagree）、B) あなたが普段目にする情報源とは異なる情報源で調べてみる（Different）、C) ある政治的情報・報道・意見に接したとき、ネット上の別な情報源を探し、正しいかどうかチェックすること（Confirm）、D) ある政治的情報・報道・意見に接したとき、主要なオフラインのニュースメディアをチェックし、正しいかどうか確かめること（Offline）（QSP には無）、E) ネットで検索していて、政治的問題・争点について、自分の考えを変えるような情報、議論に出会うこと（Changed）の 5 項目³を EC の尺度とした。それぞれに肯定的であれば EC 度は低く、否定的であれば EC 度が高い。

JWIP では、上記 QSP、OII 調査の質問項目を参考にしながら、まず、大きく「インターネットで」と「印刷物（新聞、雑誌、書籍）、テレビ、ラジオのマスメディア（ネットでの

³ QSP、OII 調査では、A) ～D) が、never⇔rarely⇔sometimes⇔often⇔very often の 5 件法、E) が never⇔rarely⇔occasionally⇔often の 4 件法による回答。

記事・書籍・番組は除く)で」とに分け、上記A)、B)、C)、E)4種類(但し、「印刷物・マスメディア」においてC)は「ネット上情報源」ではなく「印刷物・マスメディアの別情報源」)に加え、次の4項目をEC設問として考案した(紙幅の関係で「インターネットの場合」のみを示す)。F)自分の考えに反する意見、議論を見て、不快感や怒りを感じること(Enraged)、G)ネットの情報源で、自分の考えが正しいことを改めて認識すること(Reconfirm)、H)自分の考え方に関係なく、本当のことを知ろうとして、様々な情報源を調べること(Truth)、I)自分が関心のある政治的問題・争点について、より多くを知るために、いろいろな情報源でニュースに接すること(More)。F)、G)は逆転項目として位置づけられており、JWIPの場合、回答はすべて、よくある、しばしばある、ときどきある、あまりない、全くない、の5件法である。

② MFTはHaidtらが2000年代に発展させてきた道徳心理学における理論である(Haidt 2013)。道徳的判断と行動を、理性ではなく情動を伴う直観にもとづくとするSocial Intuitionism(社会的直観主義)に因り、<ケア/危害>、<公正/欺瞞>、<内集団(忠誠)/背信>、<権威/転覆>、<聖/不浄>、<自由/抑圧>という6つの情動が、道徳基盤を構成すると主張する。これら6情動の高低パターンと政治的態度・志向性(アメリカにおける「保守」「リベラル」「リバタリアン」)との間に強い相関性があることを実証的に示してきた。木村(2018)は、日本社会においてMFTにもとづき、「保守」、「リベラル」それぞれのパターンと情動の強さによる複数のレベルを識別でき、ネット世論、炎上に関連する情報行動とも相関性があることを明らかにした。

これら6情動を測るMFT質問は、ある人の行為が道徳的に正しいか間違っているかを判断するときの基準としての関連性を訊く質問群(A群、問35)と道徳的価値観への同意を訊く質問群(B群、問37)からなり、完全版はA群17問、B群22問の合計39問だが、本研究では問35、37にあるように、それぞれ12問、合計24問の短縮版を用いた。

③④ MFTとともに、政治的態度・志向性との関係で議論されてきたのが、SDOとRWAである。SDOはPrattoら(Pratto et al. 1994)により提案された集団間差別に関する心理的尺度(社会を集団間の競争と考え、集団間に優劣があり、ある集団が別の集団に対して優位に立つことを正当と考える傾向)であり、本研究では16項目版をもとにした8項目版(問39)を用いた。VSAは、Bizumic and Duckitt(2018)が、AltemeyerのRWA(右翼的権威主義)をACT(Authoritarianism, Conservatism, Traditionalism)という3次元から構成されるものとし提案したものである。SDO、VSA、RWAは、ナショナリズム、偏見・差別、自民族中心主義、権威主義などを説明する社会心理的尺度であり、本稿では触れないが、MFTとの関係についての研究も展開されている。

2.3 OII 調査

先述のように、Dubois と Blank (2018) は、EC を、Disagree、Different、Confirm、Offline、Changed という 5 項目で測定している。これはつまり、EC を、個人が自らの政治的意見に固執している程度、異なる意見、多様な意見に耳を傾け、正しい情報を求める情報行動を行わない程度として捉えている。Dubois と Blank は、このような EC 度が、ニュース接触における「メディア多様性 (Media Diversity、以下「MD」と表記)」と「政治的関心の強さ」に反比例することを示した。

MD とは、ニュース、政治的情報接触のメディアチャンネル多様性のことである。OII 調査では、オフラインメディア 6 項目 (㊶テレビ、㊷ラジオ、㊸新聞・雑誌、㊹政治家・政党配布情報、㊺家族・友人、㊻慈善団体等)、オンラインメディア 6 項目 (㊼ネット検索、㊽電子メール、㊾ネットニュースサイト、㊿ソーシャルメディア、㊽政治家・政党ウェブサイト、㊾動画サイト) の計 12 項目について、利用頻度を「けてない」から「よくある (ほとんどいつも)」の 5 件法できき、それぞれ 0~4 で得点化 (得点 0~48) された。JWIP では、オフライン 4 項目 (㊶~㊹)、オンライン 4 項目 (㊼、㊽~㊿) の計 8 項目 (得点 8~40) で得点化することとした。

直観的に MD は EC と相関している (MD が高まれば EC は低下する) ように思われるが、概念的に MD は EC とは独立している。つまり、自らの政治的意見に固執し、異なる意見に耳を傾けない EC 度が高い個人が、MD を構成する多様な情報チャンネルで、同質的情報にのみ接する場合や、ソーシャルメディアだけ利用するが、多様な意見に耳を傾け、EC 度が低い場合も十分にありうる。それはソーシャルメディア (以下「SM」と表記) の場合で考えればより明確だろう。SM は多様だが、異なる SM 利用が EC 度と関連するか否かは実証的に検証されるべき課題である。そこで、OII 調査では、SM 多様性 (以下「SMD」と表記) を、Facebook、Twitter、Instagram など 12 のソーシャルメディアでのアカウント保持数 (得点 0~12) として規定した (JWIP では、Facebook、Twitter、Instagram、LINE、ブログ 5 種類の利用有無・頻度合計 (得点 0~15))。仮に、MD、SMD が EC 度に影響を与えているのであれば、多様な情報流通チャンネルを育み、接触を促すことが民主主義にとって重要と考えることもできる。

他方、政治的関心と EC もまたは独立しているが、政治的関心が高いと EC もまた高いとも考えられる。あるいは、政治的関心の高い個人が、特定のメディアに積極的に接することによって、EC 度が高まることも十分考えられる。したがって、MD、SMD、政治的関心、EC との関係をつかえることが重要となる。

Dubois と Blank (2018) は、統制変数として、人口学的属性 (年齢、性、婚姻状態、就労状態 (就労・退職・失業)、学歴、世帯収入)、保守・革新イデオロギー尺度 (JWIP 問 40)、ネット利用スキル (JWIP 問 12 が対応)、政治参加 (候補者・政党支援のための活動、政党

員、他者との議論、説得など、11項目（それぞれ有／無）（JWIPには対応なし）、説明変数として、a) 政治への関心（JWIP問34（4））、b) MD、c) SMDを投入し、EC5項目それぞれを目的変数とする回帰分析を行った。

その結果、MDが5項目すべてで0.1%水準、SMDが0.1%水準（1項目）、1%水準（4項目）、政治的関心とネット利用スキルが0.1%水準（3項目）、5%水準（1項目）、政治参加が1%水準（2項目）、5%水準（1項目）で有意。つまり、MD、SMDが高ければ高いほど、政治的情報への多様なチャンネル、ソーシャルメディアを利用していればいるほど、EC度は有意に低く、政治的関心、政治参加が強ければ強いほど、EC度がやはり低い。さらに、保守・革新尺度で、最も保守寄り2水準、最も革新寄り2水準の回答者のみでも、また、政治的関心がないとの回答者だけを分析しても、同様の結果であった。つまり、FacebookやTwitterという単一のプラットフォームでは、homophily、ECが観察されたとしても、大半の人々は、高度に多元化した選択の情報メディア環境において、複数のメディアに接触し、使い分けることで、ECに陥ることがないと考えられる。

2.4 EC度・政治的情報接触の国際比較

上記のようなOII調査を受け、OPOS-EC研究の分析を行った。紙幅の関係から、ここでは3種類の分析結果のみを報告する。まず、QSP7か国調査データとの比較を、EC関係と政治的情報接触について概観する。OII調査EC5項目の内、QSPとJWIPに共通しているのは4項目（Disagree、Different、Confirm、Changed）である（表2.4.1）。4項目はいずれも同意の場合EC度が低いため、表の「5」～「1」は、5件法の回答における「全くない」＝5から「よくある」＝1とし、平均が高ければEC度が高い（ChangedはQSPが4件法のため、1=1, 2=2.333, 3=3.667, 4=5で換算）。

表に示されているように、7か国と比較し、日本は相対的にEC度が高い。いずれの項目も中立点は3であり、QSP7か国の内、伊、波蘭、西、米4か国は、Changedこそ3点を若干超えるが、他の3項目については3点未満であり、社会全体として中立点よりもEC度が低く、異なる意見、情報源に耳を傾ける傾向が強い。英仏独はEC度が中立点よりもやや強く、英独は4項目中3項目、仏は4項目とも3点を超える。ところが、日本の場合、留置調査、ウェブ調査、印刷物接触、ネット接触問わず、多くの場合3.5を越える。回答の分布をみても、ECに囚われない肯定的な回答は、ConfirmやChangedでは1割前後に留まっており、印刷物でも、ネットでも、事実を確かめたり、異なる意見に触れて自分の意見を変えることがあまりない。

表 2.4.1 QSP7 か国・JWIP 留置、ウェブ調査での EC4 項目の比較

	Confirm						Changed*					
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
FR	15.8	14.5	35.8	24.7	9.2	3.03	29.7	33.9		29.6	6.8	3.49
DE	14.8	18.4	38.7	21.1	7.1	3.13	30.2	39.4		25.2	5.2	3.59
IT	9.3	12.9	35.2	32.2	10.4	2.79	20.0	34.7		32.3	13.1	3.16
PL	6.8	12.2	35.4	33.5	12.1	2.68	14.8	36.2		37.6	11.5	3.06
ES	9.2	10.5	35.4	28.4	16.5	2.68	17.4	37.9		34.7	10.0	3.17
UK	13.9	15.3	37.7	23.7	9.4	3.01	28.4	36.9		27.8	7.0	3.49
US	8.2	10.7	35.1	29.7	16.3	2.65	17.2	38.8		33.7	10.3	3.17
留置・印刷	17.9	48.7	24.4	7.0	2.0	3.73	13.0	47.6	32.7	5.7	1.0	3.66
留置・ネット	34.6	30.5	24.7	8.0	2.2	3.87	33.2	40.7	22.0	3.2	0.9	4.02
ウェブ・印刷	17.9	32.4	36.1	10.2	3.3	3.51	14.8	37.1	38.0	8.5	1.6	3.55
ウェブ・ネット	17.5	30.0	37.1	11.9	3.4	3.46	19.5	33.5	35.5	9.2	2.3	3.59

*Changed=QSP が 4 件法 (Never、Rarely、Occasionally、Often) のため、1=1, 2=2.333, 3=3.667, 4=5 で換算

	Disagree						Different					
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
FR	13.1	15.4	42.9	21.4	7.2	3.06	17.0	19.0	38.8	18.6	6.6	3.21
DE	7.2	14.1	46.7	24.3	7.7	2.89	18.9	28.8	38.2	10.2	3.8	3.49
IT	7.2	11.0	39.1	33.2	9.4	2.73	9.6	15.1	39.7	27.5	8.2	2.91
PL	6.3	15.1	41.6	29.1	7.9	2.83	7.7	16.7	41.7	26.5	7.4	2.91
ES	8.0	12.8	40.8	28.1	10.3	2.80	9.2	16.2	38.0	25.9	10.8	2.87
UK	8.9	11.8	44.7	24.9	9.7	2.85	15.9	22.4	38.8	16.7	6.2	3.25
US	6.3	11.0	45.2	25.8	11.7	2.74	10.0	17.1	41.5	21.7	9.7	2.96
留置・印刷	7.8	32.7	38.5	16.8	4.2	3.23	13.7	50.0	27.7	7.7	1.0	3.68
留置・ネット	23.6	29.5	28.6	13.3	5.0	3.53	28.0	36.9	23.9	8.4	2.8	3.79
ウェブ・印刷	10.7	23.7	44.3	16.1	5.3	3.18	14.9	33.9	35.8	11.9	3.5	3.45
ウェブ・ネット	12.6	25.7	42.7	14.7	4.3	3.28	16.1	30.6	38.2	12.0	3.1	3.45

但し、日本の留置調査とウェブ調査を比べると、留置の方がより EC 度が高く、ウェブ調査モニターは、相対的に EC 度が低い。ウェブ調査モニターは、ネット非利用者、非モニター者に比べてネット利用に積極的と考えられるが、本研究では、そのモニターたちの EC 度が相対的に高くなることはなく、これは、ネットの活発な利用が EC を促進するという EC に関して語られる懸念は当たらないことを示唆していると解することができます。しかしながら、留置調査の印刷物とネットでの情報接触を比べると、印刷物に比べ、ネットでの情報接触の方が、政治的情報に関して EC 度が高くなっており、この点はさらに分析が必要である。

さて、QSP7 か国と比較可能な政治家・候補者・政党ウェブサイト、ネットニュースサイト、ソーシャルメディアでの政治的情報への接触に関する回答の分布をまとめたのが表 2.4.2 である。この表では、「よくある」=5 から「全くない」=1 とし、平均も算出して

いる。この表からも、波蘭が最も政治的情報接触が活発で、西、伊、米と続き、英仏独はどの項目も中立点未満と、EC度と同様の傾向を見せている。そして、日本の場合も同様に、政治的情報への接触がきわめて限られている。

このように、日本社会では、政治的情報へのオンラインでの接触自体が限られており、社会全体としてEC度が相対的に高いことはまず十分認識する必要があるだろう。

表 2.4.2 QSP7 か国・JWIP 留置、ウェブ調査での政治的情報ネット接触の比較

	政治家・候補者・政党ウェブサイト						ネットニュースサイト						ソーシャルメディア					
	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均	5	4	3	2	1	平均
FR	3.8	11.7	22.4	21.3	40.8	2.16	6.6	22.6	31.9	18.5	20.4	2.77	7.2	13.8	22.6	19.0	37.5	2.35
DE	3.6	9.9	25.5	24.3	36.7	2.19	10.1	25.1	32.1	17.6	15.1	2.98	5.9	13.7	24.3	19.2	36.9	2.33
IT	4.2	11.9	25.0	24.8	34.1	2.27	9.1	28.5	35.8	15.5	11.1	3.09	8.5	20.0	29.4	21.6	20.4	2.74
PL	6.3	20.2	34.1	24.4	15.0	2.78	11.3	35.7	33.9	13.1	6.1	3.33	11.6	25.6	28.5	19.7	14.6	3.00
ES	5.9	14.6	23.5	22.7	33.4	2.37	14.9	36.1	30.6	10.1	8.4	3.39	12.6	22.0	28.0	18.3	19.1	2.91
UK	4.5	10.3	23.7	23.1	38.4	2.19	10.3	23.3	32.7	16.4	17.4	2.93	6.9	13.0	25.1	16.8	38.2	2.34
US	7.2	15.2	28.5	21.3	27.8	2.53	11.7	23.3	36.4	14.5	14.1	3.04	11.3	16.4	25.6	18.3	28.4	2.64
留置	1.5	4.0	12.0	41.2	41.2	1.83	5.3	11.4	27.5	28.2	27.5	2.39	2.5	7.5	19.8	33.0	37.2	2.05
ウェブ	1.3	5.1	17.5	26.3	49.8	1.82	5.9	15.3	29.8	21.0	28.0	2.50	3.5	9.2	21.7	25.0	40.6	2.10

2.5 MFT、SDO、VSA

JWIP 調査で独自項目として設けた MFT（問 35、37）、SDO（問 39）、VSA（問 38）についてだが、詳述する余地がないため、次節で報告する回帰分析に投入した変数を明確にし、留置調査における、回答者全体と性年代別の大きな傾向をまとめておくに留める。表 2.5.1 は、VSA、SDO、それぞれについて、構成する質問項目とその単純平均としての VSA、SDO をまとめている。6 件法でたずねており、各項目、権威主義的、支配志向であれば得点が高くなるように、「0」～「5」で得点化した。したがって中立点は 2.5 である。

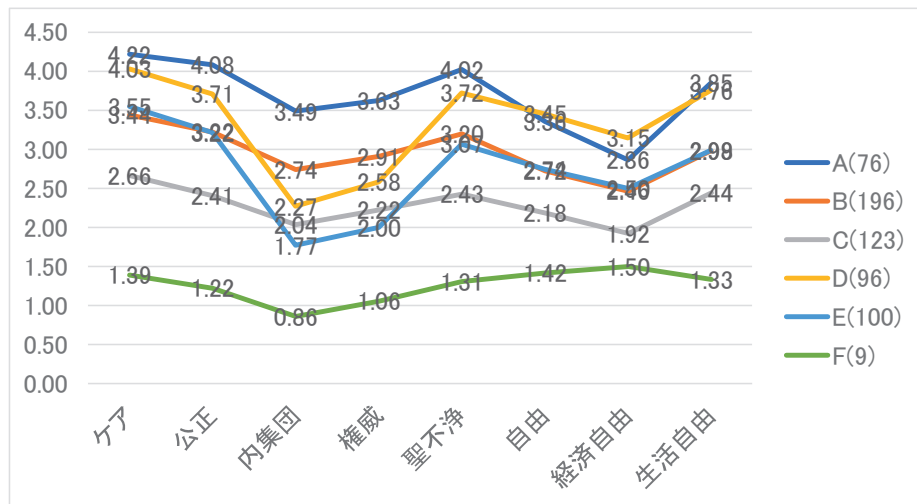
表をみると、VSA の場合、「・・・法と秩序を守りたいのであれば、問題を引き起こす人々を、もっと厳しく取り締まる必要がある」という項目に賛成が多い反面、「・・・すべての人が、団結して、指導者たちに従うことだ」には反対が多く、全体としては中立点に近い。性年代でみると、女性では若年層は低く、高齢者は高い傾向が認められる。SDO は、全体としては中立点よりも低く、女性は総じて 2.1～2.2 と強くないが、男性は 20 代～40 代が 2.4～2.5 と相対的に高い。劣った集団の存在があると認識し、所得格差をなくす方向に消極的、人々を平等に扱うことが社会的問題を減少させるとは考えない傾向がみられる。ただ、今回の調査データでは、クロンバックの α 係数が、VSA は 0.240、SDO は 0.651 と、尺度としての信頼性は高くない。

表 2.5.1 留置調査における VSA、SDO の概要

JWIP留置	全体	20女	30女	40女	50女	60女	20男	30男	40男	50男	60男
問38.VSA	2.455	2.330	2.490	2.500	2.566	2.609	2.451	2.367	2.375	2.372	2.460
1.若者権威反抗R	2.349	2.020	2.333	2.324	2.586	2.318	2.278	2.455	2.275	2.466	2.413
2.規律団結服従	1.804	1.654	1.942	1.750	1.776	1.776	2.037	1.745	1.826	1.724	1.828
3.神の摂理	2.713	2.808	2.943	2.881	2.707	2.954	2.759	2.491	2.478	2.571	2.556
4.婚前交渉R	2.049	1.846	1.925	1.882	2.293	2.754	2.074	1.764	1.671	1.931	2.297
5.強い政府・厳格法不必要R	2.502	2.346	2.396	2.574	2.638	2.585	2.370	2.527	2.657	2.439	2.406
6.法秩序取締り	3.310	3.255	3.491	3.612	3.397	3.242	3.185	3.218	3.333	3.138	3.190
問39.SDO	2.238	2.235	2.174	2.193	2.112	1.940	2.439	2.507	2.424	2.223	2.165
1.劣位集団の存在	2.551	2.627	2.451	2.515	2.483	2.455	2.564	2.685	2.743	2.316	2.645
2.集団間好運差異是認	1.976	2.098	1.962	1.851	1.862	1.493	2.364	2.345	2.129	1.948	1.839
3.他集団踏み台	2.170	2.353	2.288	2.209	1.948	1.567	2.436	2.618	2.457	2.103	1.839
4.劣位集団身分相応	1.745	1.627	1.755	1.627	1.534	1.328	1.964	2.000	1.913	1.839	1.919
5.集団間平等理想R	2.240	2.196	1.981	2.235	2.086	2.075	2.564	2.455	2.449	2.328	2.032
6.集団間平等措置R	2.274	2.294	2.212	2.239	2.158	2.045	2.455	2.491	2.406	2.246	2.226
7.社会的平等R	2.454	2.333	2.308	2.559	2.345	2.104	2.618	2.782	2.565	2.466	2.468
8.平等に扱うと問題改善R	2.485	2.353	2.346	2.397	2.466	2.299	2.545	2.673	2.783	2.603	2.365

MFT については、6 基盤（さらに＜自由＞については、＜経済自由＞と＜生活自由＞に分けた）の得点をもとに、回答者のクラスタリング分析を行った。K-means 法、階層型で、クラスタ数を変え、探索的に分析した結果、K-means 法での 6 クラスタモデルを採用した。その A～F のクラスタについて、6 基盤毎の平均値をプロットしたのが図 2.5.1 である。

図 2.5.1 留置調査における MFT による 6 クラスタの概要



凡例のクラスタ名に続くカッコ内の数字は、分類された回答者数を示す。

図から分かるように、各基盤がほぼ同程度に強い「保守」パターン（A～C）と、＜ケア＞＜公正＞が＜内集団＞＜権威＞よりも 1 ポイント以上高くなる「リベラル」パターン（D、

E) に大別され、少数だが、ややいい加減な Satisfice (回答努力最小限化) 傾向 (F) も認められる。保守とリベラルはほぼ 2 対 1 である。回帰分析には、このクラスタの区別を投入した。

2.6 回帰分析

表 2-4 は、留置調査の印刷物接触、ネット接触での EC 各項目に関して、回帰分析を行い、5%水準で有意となった変数について、パラメータ推計値をまとめている。EC は効果が高いほど数値も高いため、推計値がプラスということは、その変数が EC 効果を高める方向に働き、マイナスの場合は EC 効果を低減する方向に働くことを示す。

OII 調査と同様、OPOS-EC 研究においても、今回測定した EC8 項目に関して、社会経済的属性はほとんど影響なく、MD が最も EC に対して働き、しかも、それは低減する方向であることが示された。保守・革新イデオロギーの強さ (極端さ) 自体は、EC にほとんど影響を与えず、「政治関心」がウェブ接触の Truth を除いて、いずれも有意であり、政治関心の高い回答者ほど EC は低くなる。

この 2 要因に比べると、他の要因は限定的だが、EC 効果を低下させる方向に働くものとしては、ネットニュース閲覧、テレビニュース視聴をあげることができる。他方、匿名 BBS 閲覧は、よく利用するほど、自説を確認することが多くなり、見解を改めることは少なくなる。また、道徳基盤が保守的で情動がさほど強くないクラスタでは、ネットでの政治的情報接触で EC が高まる傾向がみられる。さらに、OII 調査と同様、イデオロギー的態度が強い (MFT 道徳基盤が強い) 人々で、EC 効果が高まるわけではなく、むしろ低くなる傾向も認められる。

表 2-1 EC8 項目の回帰分析結果 (JWIP 留置調査)

留置調査	印刷物接触								ウェブ接触							
	Disagree	Difference	Confirmation	Enraged	Reconfirmation	Truth	More	Changed	Disagree	Difference	Confirmation	Enraged	Reconfirmation	Truth	More	Changed
MD	-0.55	-0.57	-0.56	-0.75	-0.55	-0.66	-0.71	-0.82	-0.56	-0.73	-0.84	-0.73	-0.69	-0.82	-0.94	-0.67
政治関心	-0.20	-0.14	-0.17	-0.03	-0.15	-0.16	-0.21	-0.01	-0.36	-0.23	-0.31	-0.20	-0.25		-0.21	-0.19
SMD									-0.25		-0.23					-0.25
保守革新																0.23
ネットリテラシ得点	0.18									-0.18						
TVニュース			-0.41		-0.30	-0.37	-0.40	-0.30							-0.38	
NetNews閲覧	-0.33	-0.51	-0.56		-0.45	-0.56	-0.43	-0.39	-0.59	-0.46						-0.49
NNコメント閲覧									-0.27	-0.13	-0.16	-0.14			-0.21	-0.12
NNコメント書込																
匿名BBS閲覧					0.23			0.16								
炎上目撃	-0.22	-0.19									-0.24					
拡散			-0.34		-0.31											
レビュー書込		-0.17				-0.25								-0.16	-0.16	
男性					-0.09		-0.15									
MFT・C保守低									0.25					0.35	0.42	

つまり、政治的に極端な立場、態度の人々が、同じ立場の言説ばかりに接し、より過激になるというイメージをこれまでの EC に関する議論は前提としている側面があるが、本研究は、政治的態様の強さ、立場の極端さは関係なく、政治関心が強ければむしろ EC は低下すること。むしろ政治的関心が高いからこそ対立する立場にも接する可能性があること。MD が最も重要であり、ネットニュース、テレビニュースへの接触と合わせ、多メディア環境で、多様なメディアから政治情報に接触することが重要であり、その意味では、日本社会はネット上の情報源利用が多様性を欠いており、社会全体として EC 傾向が強まっていることをまずは認識することが必要であると結論づけられる。

参考文献

- 木村忠正 (2018) 『ハイブリッド・エスノグラフィー』新曜社
- Bizumic, B., & Duckitt, J. (2018). Investigating right wing authoritarianism with a very short authoritarianism scale. *Journal of Social and Political Psychology*, 6(1), 129-150.
- Dubois, E., and Blank, G. (2018). 'The echo chamber is overstated: the moderating effect of political interest and diverse media'. *Information, Communication and Society*, 21(5), 729-745.
- Dutton, W.H., Reisdorf, B.C., Dubois, E., & Blank, G. (2017). Search and Politics: The Uses and Impacts of Search in Britain, France, Germany, Italy, Poland, Spain, and the United States. Quello Center Final Report for the project "The Part Played by Search in Shaping Political Opinion", supported by Google, UK, in collaboration with Google Inc. East Lansing, MI: Michigan State University.
- Haidt, Jonathan, 2013, *The Righteous Mind: Why Good People are Divided by Politics and Religion*. (=2014, 『社会はなぜ左と右にわかれるのか——対立を超えるための道徳心理学』紀伊國屋書店.)
- Pratto, F., Sindanius, J., Stallworth, L. M., & Malle, B. F. (1994). Social Dominance Orientation: A Personality Variable Predicting Social and Political Attitudes. *Journal of Personality and Social Psychology*, 67 (4), 741-763.

3. インターネットとプライバシー

3章は、プライバシーおよび人間関係に関する質問に関する集計結果を紹介する。まず、プライバシー侵害経験(問 16, 17)、次いで、関係流動性、対人関係におけるリスク回避志向(問 20)、ネット上のプライバシーに関する不安についての集計結果を紹介する。

3.1 ネット上のプライバシー侵害経験 (問 16、問 17)

表 3.1.1 は、過去一年間にネット上でプライバシーを侵害されたことがあるかを聞いた結果である(対象者はインターネット利用者のみ)。大部分(96%)の人がプライバシーを侵害されたことはないと答えた。また、侵害経験があると答えた 19 人のうち、「かなりの問題」あるいは「深刻な問題」と答えたのは 3 人のみである。19 人の被害状況の内容を分類したのが表 3.1.2 である。

表 3.1.1 プライバシーの侵害経験 (N=535)

	%	N
1) 過去1年で、侵害されたことはない	96.4	516
2) 侵害はされたが、實際上問題はなかった	2.4	13
3) 侵害されたが、たいした問題ではなかった	.6	3
4) 侵害され、かなり問題が起きた	.2	1
5) 侵害され、深刻な問題が起きた	.4	2

表 3.1.2 プライバシーの侵害の具体的な内容 (N=19)

	%
1. 金銭的・経済的損害(例: お金を失った)	15.8
2. 恥ずかしい・メンツを失う(例: 他人に知らないでほしかったあなた自身のことを知られる)	10.5
3. なりすまし(例: 誰かがあなたになりすます、あなたの身分証明を盗み取る)	5.3
4. 人間関係(例: 友人関係、恋愛関係が危うくなる)	15.8
5. 仕事(例: あなたの仕事、キャリアが影響を受ける)	15.8
6. 心理的被害(例: ネットいじめ、からかいの対象になる)	31.6
7. その他(具体的に)	26.3

プライバシーの侵害被害を受けた人がどういう人々かデモグラフィック要因との関係からみてみる。性別で言うと男性 9 人、女性 10 人であり一般の回答者と違いは見られない。年齢別では、10-20 代 4 人、30-40 代 12 人。50-60 代 3 人であり、やはり一般の回答者と

の統計的な有意差は見られなかった。統計的に強い有意差が見られたのは、インターネットの利用時間である。被害はなかったとした回答者の1日あたり平均が43.4分(N=515)であるのに対して、被害を受けた19人の平均は93.7分であり、2つのグループの間には0.1%水準で統計的に有意差が認められた(F=7.61, $p < 0.001$)。インターネットを使う人ほどプライバシーの侵害を受けやすいという結果が見られるといえる。

3.2 関係流動性 (問 19)

問 19 の 12 問の質問は、人間関係の流動性を測定することを目的として Yuki, Schug, Horikawa, Takemura, Sato, Yokota, & Kamaya(2007)によって提案された「関係流動性尺度」の7点尺度の項目を用いたものである(山田, 鬼頭, 結城 2015)。関係流動性とは、個人が自発的に新しい人間関係を形成したり、やめたりできる程度である(Yuki and Schug 2012)。結城らは、関係流動性が日米の文化差を説明する基本的な変数と考えており、米国のように関係流動性が高い文化では人間関係を強化しようという動機が強くなり、親しい人への自己開示度が高くなるとしている(Yuki & Schug, 2012)。表 3.2.1 で項目 3, 4, 8, 9, 11, 12 は逆転項目である。これらの項目を逆転し他の項目と合計して尺度を構成し、クロンバックの α 係数を求めたところ $\alpha = 0.759$ であり、尺度としての信頼性がみとめられた。男女別、年齢別に平均値の差があるかどうかを分析した分散分析の結果(F検定)は、女性の方が男性よりも関係流動性が高く、年齢が低いほど関係流動性が高いことが示されている(表 3.2.2)。

表 3.2.1 関係流動性尺度の各項目 (N=599)

	平均値	標準偏差
1. 彼ら(あなたと普段付き合いのある人たち)には、人々と新しく知り合いになる機会がたくさんある	4.15	1.34
2. 彼らは初対面の人と会話を交わすことがよくある	4.11	1.28
3. 彼らには、新しい友人を見つける機会があまりない	3.68	1.19
4. 彼らにとっては見知らぬ人と会話することはそうあることではない	3.69	1.23
5. 彼らが新しい人たちと出会うのは簡単なことだ	4.12	1.24
6. 彼らは、ふだんどんな人と付き合いかを、自分の好みで選ぶことができる	4.25	1.28
7. もし、現在所属している集団が気に入らなければ、彼らは新しい集団に移っていくであろう	4.03	1.25
8. 彼らにとって、付き合い相手を自由に選べないことはよくある	3.72	1.23
9. たとえ所属する集団に満足していなかったとしても、彼らはたいていそこに居続けることになる	4.00	1.19
10. 彼らはどの集団や組織に所属するかを自分の好みで選ぶことができる	4.17	1.22

11. たとえ現在の人間関係に満足していなくても、彼らはそこに留まり続けるしかないことがよくある	3.85	1.19
12. たとえ、現在所属する集団から離れたいと思っても、彼らはそこに留まらざるをえないことがよくある	3.82	1.22

表 3.2.2 男女・年齢別の関係流動性の平均値

	N	平均値	F 値	有意確率
男性	299	49.26		
女性	293	50.80	5.886	*
10-20 代	106	52.47		
30-40 代	245	50.06		
50-60 代	241	48.90	7.968	***

3.3 対人関係におけるリスク回避傾向（問 20）

これらの質問は、人間関係においてリスクを積極的にとる傾向を測定する目的で作られたものである（最低 1、最高 5 点のリッカート尺度）。Blais & Weber（2006）を参考にし、これを修正することによって作られた。クロンバックの α 係数を求めたところ、 $\alpha=0.739$ であり、尺度としての信頼性がみとめられた。男女別、年齢別の平均値を求めたのが表 3.3.4 である。男性の方がリスクをとる傾向があること、若者ほどリスクをよくとることが分かる。また、関係流動性の尺度得点とこの得点の間には $r=0.151$ ($r<.001$) という統計的に有意な正の相関関係があり、関係流動性が高いほど人間関係におけるリスクをとる関係があることも確かめられた。

表 3.3.3 人間関係におけるリスク志向（N=598）

	平均値	標準偏差
1. 友だちと自分の食べ物の好みが違うと言うこと	4.70	1.533
2. 人々から尊敬されている有名な人を批判すること	3.69	1.371
3. 安定した仕事を捨てて、楽しい仕事を始めること	3.33	1.453
4. 親戚や友達がいらない、遠く離れた町に引っ越すこと	2.93	1.560
5. 仕事の会合で、他の人たちとは異なるあなたの考えを主張すること	3.85	1.403

表 3.3.4 人間関係におけるリスク志向性の男女別・年齢別平均値

	N	平均値	F 値
男性	300	19.00	
女性	296	18.02	5.407 *
10-20 代	106	19.73	
30-40 代	245	18.86	
50-60 代	245	17.64	7.180 ***

3.4 ネット上のプライバシーに対する不安（問 21）

問 21 の 15 個の質問は、5 点尺度でプライバシーに関する様々な意識を測定するものであり、ここには WIP の共通質問および我々日本チームの独自質問が含まれている。項目 1 から項目 8 までは WIP の共通項目を翻訳したものである。このうち、項目 2, 3, 4 がクロンバックの α 係数の結果より、一次元性があることがわかった。これらは、ネットでプライバシー侵害されことへの不安の程度を示すものといえる。また、項目 9 から 12 の 4 項目は、ネットとは関係のない一般的なプライバシー意識の強さを測定することを目的としたものである。クロンバックの α 係数の結果は、これらの 4 項目が尺度として信頼性があることを示している。これらの項目は全て平均点が 3 点を上回っており、日常生活でのプライバシーに関して回答者が比較的重視していることを示している。項目 13 から 15 の 3 項目は、ネット上で自分の個人情報をどの程度開示しているのかについて聞いたものである。これらの平均点は全て 1 点台であり、ネット上においてあまり個人情報の開示は積極的にはされていないようである。これらの三項目のクロンバック係数は 0.795 であり、尺度としての信頼性があることがわかった（表 3.4.2）。

これらの三つの尺度得点の男女別・年齢別の平均値を示したのが、表 3.4.3 である。まず、ネットでのプライバシーの侵害については、男女差はないが、年齢については若者ほど不安を感じていることが示されている。一般的なプライバシー意識については、男性よりも女性の方が統計的に有意に強いが、年齢差は見られない。ネット上の個人情報の開示については、男性が女性よりも高く、若者の方が中高年の人々よりも高かった。ただし、これはネットを利用しない人も含めた結果であることに注意されたい（ネットを利用しない人であっても、他の人によって自分の個人情報が開示される可能性があるので、ネットを利用していない人を含めた分析をおこなった）。

また、ここでの三つの尺度間の相関関係についての分析結果をみると、ネット上のプライバシーの侵害の不安度と一般的なプライバシー意識の間には、 $r=0.222$ ($p<0.001$) という正の有意な相関関係が得られた。つまり、オフラインを含めた一般的なプライバシー意識が

高い人ほど、ネットでのプライバシー侵害への不安度が高いという関係があるといえる。また、ネット上での個人情報の開示度は、一般的なプライバシー意識と-0.128 という負の有意な相関関係が得られた。一般的なプライバシー意識の高い人ほど、ネット上での個人情報の開示度が低いという相関関係があるといえる。

表 3.4.1 プライバシー意識に関する各項目(問 21)の記述統計

	平均値	標準偏差	N
1) プライバシーはもはやないのが現実だ	3.05	1.06	598
2) 私のプライバシーを政府がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	2.29	0.98	598
3) 私のプライバシーを企業がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	2.53	1.10	599
4) 私のプライバシーを他人がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	2.53	1.06	599
5) わたしは、ネット上で自分のプライバシーを守ることに積極的である	2.94	1.08	597
6) ネット上のプライバシーに関する不安が大げさに騒がれ過ぎている	2.93	0.97	599
7) わたしは何ら隠すものはない	2.75	1.06	596
8) インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる	3.25	0.98	598
9) 携帯電話やスマートフォンを使っているときは、たとえ友人でも画面を見られたくない	3.24	1.11	597
10) 友人との会話を知らない人に聞かれたくない	3.38	1.10	599
11) ふだん持ち歩いているカバンの中身は、たとえ友人でも見られたくない	3.11	1.13	598
12) 自分や家族の収入の額は、他人には知られたくない	3.71	1.05	597
13) インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の詳細なプロフィールを公開している	1.85	1.05	599
14) 自分の個人情報(氏名、職業、年齢など)の多くは、インターネットで見ることができる	1.96	1.08	599
15) インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の個人情報を書きこんでもよい	1.72	0.92	599

表 3.4.2 プライバシー関係の尺度

尺度	項目	クロンバックの α
ネットでのプライバシー侵害の不安	2,3,4	0.905
一般的な(オフラインの)プライバシー意識	9,10,11,12	0.771
ネット上での個人情報の開示	13,14,15	0.795

表 3.4.3 プライバシー関係の尺度の男女別・年齢別平均値

尺度		男性	女性	10-20代	30-40代	50-60代
ネットでのプライバシー侵害の不安	平均	7.38	7.31	8.01	7.40	6.99
	F 値	.086		4.80**		
一般的な(オフラインの)プライバシー意識	平均	13.17	13.71	13.24	13.41	13.56
	F 値	3.895*		0.337		
ネット上での自己情報の開示	平均	5.98	5.08	6.38	5.48	5.22
	F 値	18.655***		7.88***		

参考文献

- Blais, A., & Weber, E. U. (2006). A domain-specific risk-taking (DOSPERT) scale for adult populations. *Judgment and Decision Making*, 1(1), 33. Retrieved from <https://search.proquest.com/docview/1010959385?accountid=25225>
- 山田 順子, 鬼頭 美江, 結城 雅樹 (2015) 友人・恋愛関係における関係流動性と親密性—日加比較による検討—『実験社会心理学研究』55(1), 18-27.
- Yuki, M., Schug, J., Horikawa, H., Takemura, K., Sato, K., Yokota, K., & Kamaya, K. (2007). Development of a scale to measure perceptions of relational mobility in society. *CERSS Working Paper 75*, Center for Experimental Research in Social Sciences, Hokkaido University.
- Yuki, Masaki; Schug, Joanna (2012) Relational mobility: A socioecological approach to personal relationships. *Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP*, 137-151 <https://doi.org/10.1037/13489-00>

4. AI／ロボット

4.1 AI／ロボット知識度（問 24）

まず、調査対象者の AI（人工知能）やロボットに関する知識を尋ねた。その結果を図 4.1.1 に示す。「よく知っている」は 2.0%ときわめて少なく、「まあ知っている」が 30.5%、合わせても「知っている」と答えた人は三分の一にも満たない。AI ブームと囃されるには、心許ない数字である。無論これは主観的な「知識度」であるが。

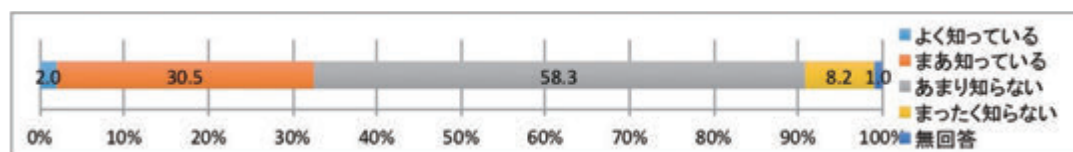


図 4.1.1 AI（人工知能）やロボットに関する知識

この主観的知識度が、どのような因子と関連しているかをみるために、この問に対する回答を「非知識度」（よく知っている：1，まあ知っている：2，あまり知らない：3，まったく知らない：4）として数値尺度化し、性別（男性：1，女性：2）、年齢、教育年数、年収額、保守度（問 40 による）を独立変数として重回帰分析を行った。結果を表 4.1.1 に示す。これによれば、AI／ロボットに関する知識度は、男性の方が、若い方が、教育年数が長い方が、高い傾向にある。一般的な通念に合致する結果である。年収額や、イデオロギーとはあまり関係ないようである。

表 4.1.1 AI／ロボット知識の重回帰分析

	非標準化係数		標準化係数		t 値	有意確率
	B	標準誤差	ベータ			
(定数)	2.312	0.265			8.711	0
性別	0.267	0.054	0.21		4.951	0
年齢	0.006	0.002	0.127		3.009	0.003
教育年数	-0.025	0.013	-0.081		-1.847	0.065
年収額	-8.28E-06	0	-0.004		-0.085	0.932
リベラルか保守か	0.023	0.026	0.036		0.871	0.384

4.2 AI／ロボットの社会的受容の予想（問 32、問 33）

人びとは、AI／ロボットの社会的受容をどのように予想しているだろうか。

問 32 では、2030 年に①医師はほとんどの病気について、診断と治療をコンピュータに依存するようになる、②ほとんどの商店あるいは小売業は完全自動化され、顧客と店員の間に対面的な対応はほとんどなくなる、③都市におけるほとんどの輸送は、人間に代わっ

て、ロボットやドローンが行うようになる、④人々が一般的な製品を購入するとき、3Dプリンタを使って、家で自分で作るようになる、などの予想は実現していると思うかを尋ねている。

その結果をみると「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、医療のコンピュータ化については41.0%、小売の自動化は33.8%、物流のロボット化が47.4%、3Dプリンタによる商品自作化は16.8%と、いずれも半数に満たない。小売の自動化は、中国などでは急速に進んでおり、日本でも導入の試みが始まっているが、33.8%に留まっている。日本では他国に比べてキャッシュレス化が遅れていることとも関係があるのかもしれない。

社会的需要予測を数値尺度化（そう思う：1，まあそう思う：2，あまりそう思わない：3，そうは思わない：4）し、性別、年齢、教育年数、年収額、保守度で重回帰分析した結果を表4.2.1に示す。医療のコンピュータ化と3Dプリンタによる自作化については、いずれの因子も相関があるとはいえなかった。小売の自動化と物流のロボット化については、性別では男性の方が、年齢では高齢層の方が実現を予測する傾向が見られた。

表 4.2.1 AI／ロボットの2030年における社会的受容予測

	性別	年齢	教育年数	年収額	リベラルか保守か
医療のコンピュータ化	0.001	-0.012	-0.006	0.038	-0.002
小売の自動化	0.095*	-0.114**	-0.068	0.022	0.016
物流のロボット化	0.092*	-0.081△	0.011	0.032	0.026
3Dプリンタによる自作化	-0.021	-0.022	-0.044	-0.046	0.01

**：p<1%，*：p<5%，△：p<10%

また問32については、アメリカのPew Research Centerが2017年10月に公表した調査報告書⁴⁾“Automation in Everyday Life”⁵⁾に、同じ質問の結果がある。日米を比較したのが、図4.2.1である。調査方法なども違うので短絡的な結論は慎まねばならないが、一瞥したところ、アメリカの方が、いずれについても、実現を予測する割合が2倍近くになっている。

4 調査期間：2017年5月1日～15日，N=2090

5 https://www.pewresearch.org/internet/wp-content/uploads/sites/9/2017/10/PI_2017.10.04_Automation_FINAL.pdf

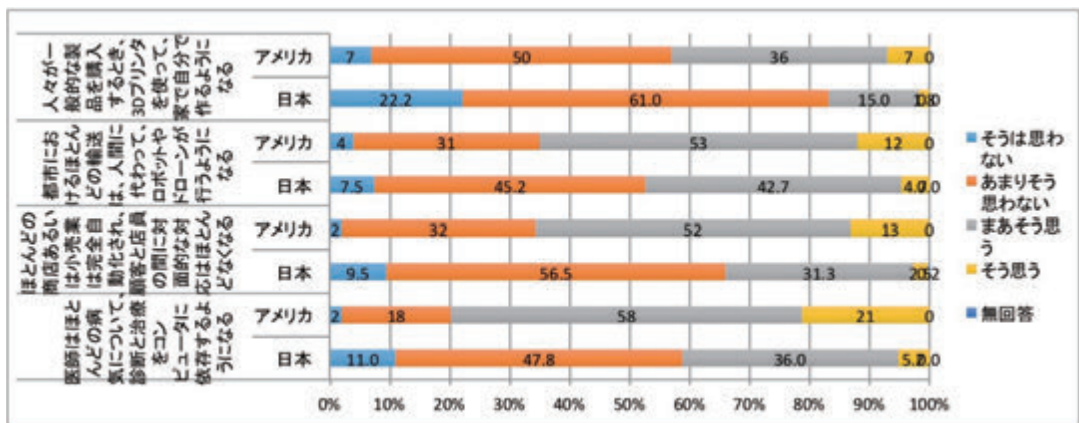


図 4.2.1 AI/ロボットの 2030 年における社会的受容予測の日米比較

個別システムの評価としては、職員採用時の人物評価システムが①適格者の採用、②企業文化に適合する人の採用、③多様なバックグラウンドをもった人からの選別、④伝統的でない経験を持った人に機会を提供するにおいて人間よりも優れているかについて、①問 33 で尋ねた。これも、上記 Pew Research Center の調査に同じ質問項目があるので、それとの比較を、図 4.2.2 に示す。全般に、アメリカの方が採用システムに対する評価が厳しい。ただしそれは、「人間と同じレベル」との回答割合が低いことにもよる。

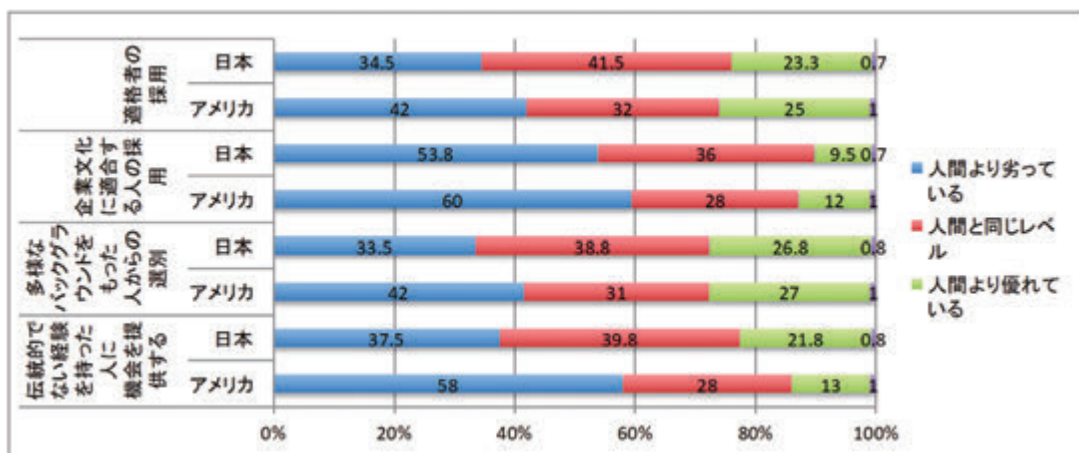


図 4.2.2 人物評価システムと人間との優劣（日米比較）

4.3 AI/ロボットへの期待・不安（問 26、問 27、問 31）

AI、IoT の進歩する未来は望ましいか否かについて尋ねた結果を図 4.3.1 に示す。

これによると、「介護ロボット」と「自動運転技術」については、「望ましい」という答えが6割を超えている。これに対して、「人に代替して仕事を行うロボット」や「人事採用評価AI」については、「望ましくない」が8割近くに達している。

現代日本人は、人間をサポートしてくれるロボットやAIを望んでおり、人間に取って代わるロボットやAIは望んでいないということであると考えられる。

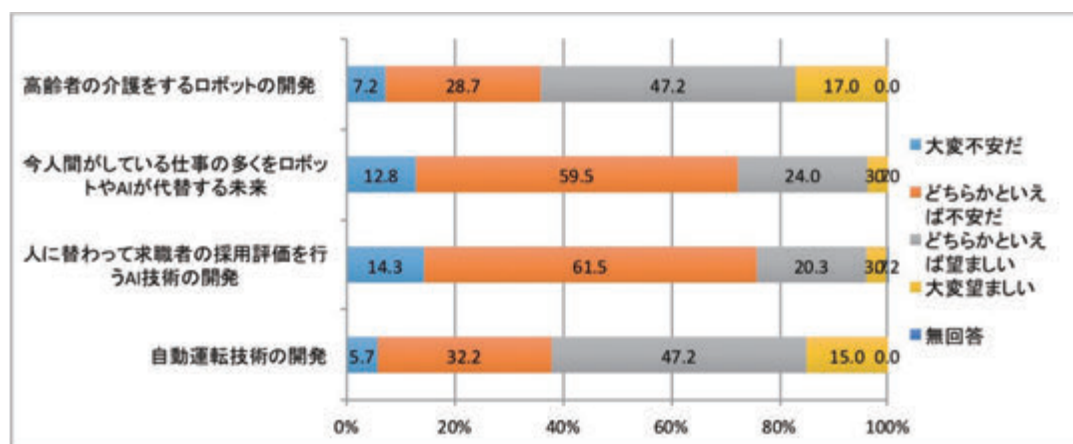


図 4.3.1 AI（人工知能）やロボットの進歩は望ましいか？（N=600）

未来技術を望ましいと感じる感性は、どのような因子と関係があるのかを考えるために、重回帰分析を行った結果が、表 4.3.1 である。これによれば、「自動運転技術」や「介護ロボット」に対して望ましいと感じる感性は、「AI やロボットに関する知識」と正の相関があることがわかった。これに対して「人間に代替するロボット」の望ましさは、性別や年齢と関係があり、男性や若年層の方が望ましいと感じる傾向があることがわかった。

表 4.3.1 各未来像の望ましさに関する重回帰分析（各因子の標準化係数）

	モデル有意確率	性別	年齢	教育年数	年収額	AI やロボットに関する知識	リベラルか保守か
自動運転技術の開発	0.002	-0.024	-0.045	0.072	0.062	-0.118**	0.032
求職者の採用評価を行うAI技術の開発	0.742	-0.052	-0.029	-0.005	0.03	-0.014	0.029
人間の仕事の多くをロボットやAIが代替	0.009	-0.102**	-0.087*	0.053	-0.007	-0.05	0.008
高齢者の介護をするロボットの開発	0.062	-0.023	-0.014	0.066	-0.013	-0.1*	0.054

注) *** : p<0.1%、** : p<1%、* : p<5%、△ : p<10%

AI、ロボット技術が普及した社会では、どのような変化が起こると人びとは考えているだろうか。調査結果を図 4.3.1 に示す。これによれば、飛び抜けて「可能性がある」と答えた人の割合が高いのは、「貧富の差の拡大」で、8 割以上の人々が「可能性がある」と答えている。つぎに多いのは、「経済の効率化」、「高齢者や障がい者の自立支援」、「人生の意義の不明化」が起こる可能性がある」と 6 割以上の人々が答えている。「仕事よりも人生で重要なことに集中できる」は「可能性がある」と答えた人と、「ない」と答えた人がほぼ半々であった。反対に、「人間はもっと意味のある仕事に集中できる」「もっと賃金の高い仕事が創造される」の「可能性がある」と答えた人は、約 4 割にとどまった。全体として、現代日本人は、AI やロボットの普及した社会のゆくえに悲観的であるようである。

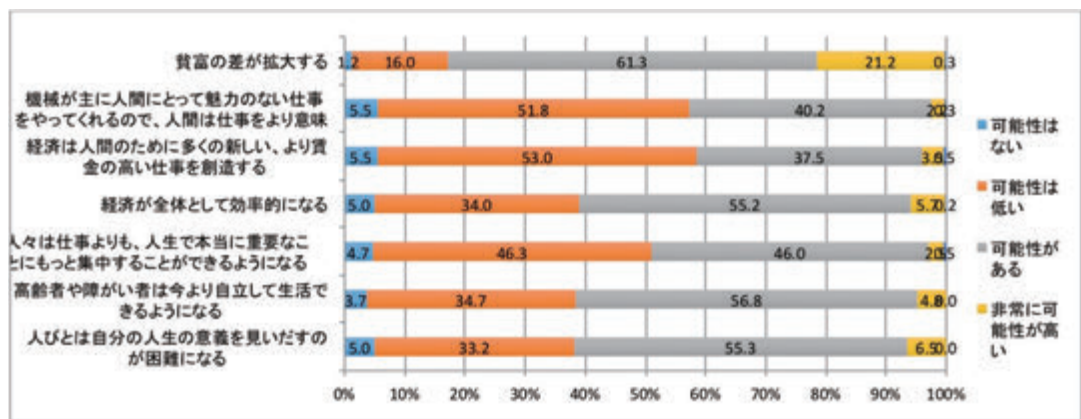


図 4.3.2 AI、ロボット技術が普及した社会で起こる変化

AI、ロボット技術普及の結果予測にどのようなファクターが関係しているのかを見るために、重回帰分析を行った。その結果を表 4.3.2 に示す。

これによると、AI やロボットに関する知識があるほど未来に対して肯定的な予測をする傾向がある。また、保守層ほど否定的である傾向があることがわかった。

表 4.3.2 AI、ロボット技術普及の結果予測に関する重回帰分析 (N=550)

	モデル有意確率	性別	年齢	教育年数	年収額	AI やロボットに関する知識	リベラルか保守か
自分の人生の意義を見いだすのが困難になる	0.012	0.04	-0.016	-0.098*	-0.1*	0.019	-0.007
高齢者や障がい者はより自立して生活できる	0.071	0.046	-0.002	0.029	-0.006	-0.119**	0.08△
仕事よりも人生で重要なことにもっと集中できる	0.033	0.008	-0.014	0.038	0.066	-0.095*	0.079△

経済が効率的になる	0	-0.004	-0.047	0.078	-0.012	-0.135**	0.176***
多くの新しい、より賃金の高い仕事を創造する	0.187	-0.022	-0.011	0.041	0.011	-0.058	0.087*
機械が仕事をやってくれるので、人間は仕事をより意味深く充実した	0.03	-0.031	-0.023	0.074	0.041	-0.044	0.09*
貧富の差が拡大する	0.697	-0.041	-0.016	0.022	-0.046	-0.045	-0.012

注) *** : p<0.1%、** : p<1%、* : p<5%、△ : p<10%

その開発を肯定的に考える人の割合が高い介護ロボットが普及したら、その結果としてどのような事態が起こると考えられるか、質問した結果を図 4.3.3 に示す。これによれば、

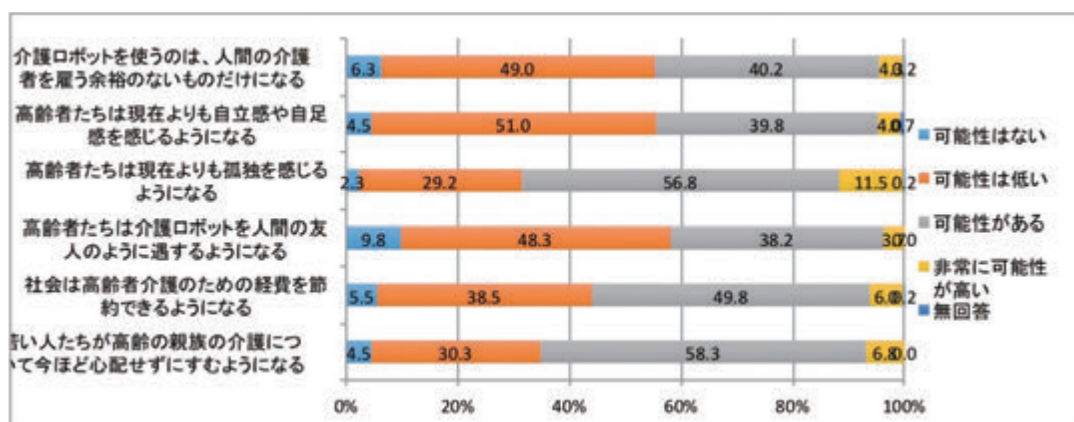


図 4.3.3 介護ロボット普及の結果、どのような事態が起こるか

4.4 AI／ロボットで代替される仕事(問 28、29)

AI やロボット技術に関して、「仕事が奪われるのではないか」という不安が取りあげられることが多い。では、生きている間に、ソフトウェア・エンジニア、法律関連業務、看護師、建設作業員、ファストフード店員、教師、保険金請求担当者などの仕事がほとんどロボットやコンピュータに置き換えられる可能性が高いと思うか尋ねたのが、問 28 である。その集計結果を図 4.4.1 に示す。

これによれば、「かなり可能性はある」（「非常に高い」あるいは「可能性はある」と答えた人）の割合は、ファストフード店員（76.0%）、ソフトウェア・エンジニア（67.8%）、保険金給付支払手続担当者（63.4%）、建設作業員（58.4%）、看護師（31.8%）、法律関連業務（31.7%）、教師（20.8%）の順となっている。

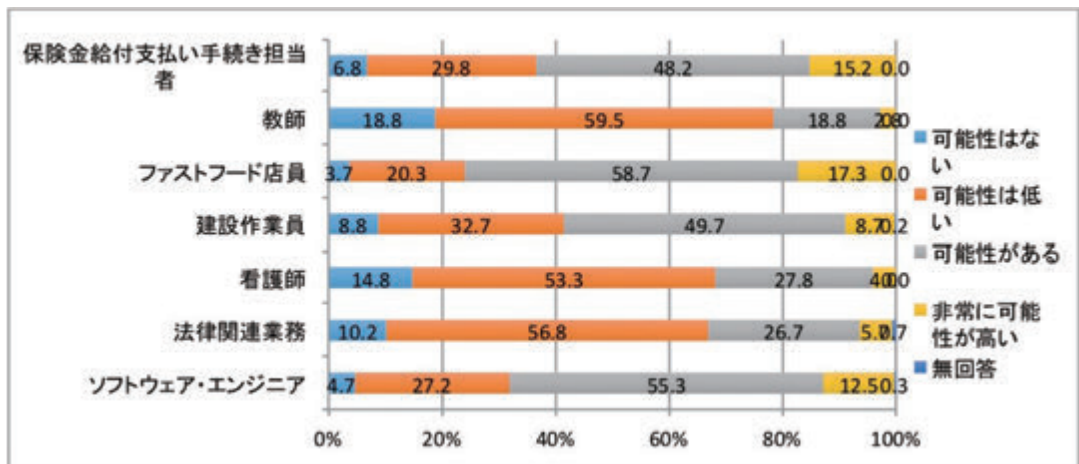


図 4.4.1 AI／ロボットで代替される仕事（％、N=600）

問 28 では第三者の視点で「AI やロボットに奪われる仕事」を尋ねたが、問 29 では、回答者自身が生きている間に、回答者自身の仕事がほとんどロボットやコンピュータに置き換えられる可能性について尋ねた。その結果、全体では、約三分の二にあたる 63.2% の回答者が「可能性はない」または「可能性は低い」と答えた。

「仕事が奪われる可能性」に対する回答を、数値尺度化（可能性はない：1，可能性は低い：2，可能性はある：3，非常に可能性が高い：4）し、重回帰分析した結果（標準化係数）を表 4.4.1 に示す。これによれば、女性ほど、年齢が低いほど、保守的であるほど、自分の仕事が奪われる可能性が高いと感じる傾向にある。

また、現在の職業によっても、（当然ながら）「自分の仕事が奪われる可能性」の認識は異なる（図 4.4.2）。

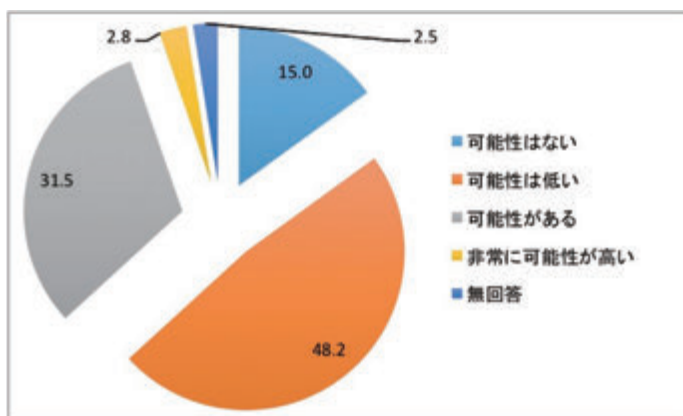


図 4.4.2 生きている間に自分の仕事が AI／ロボットに奪われると思うか（％）

表 4.4.1 「あなたの仕事が奪われる可能性」の重回帰分析（標準化係数）

	性別	年齢	教育年数	年収額	リベラルか保守か
標準化係数	0.08△	-0.149**	0.032	-0.006	0.115**

a 従属変数 あなたの仕事が奪われる可能性

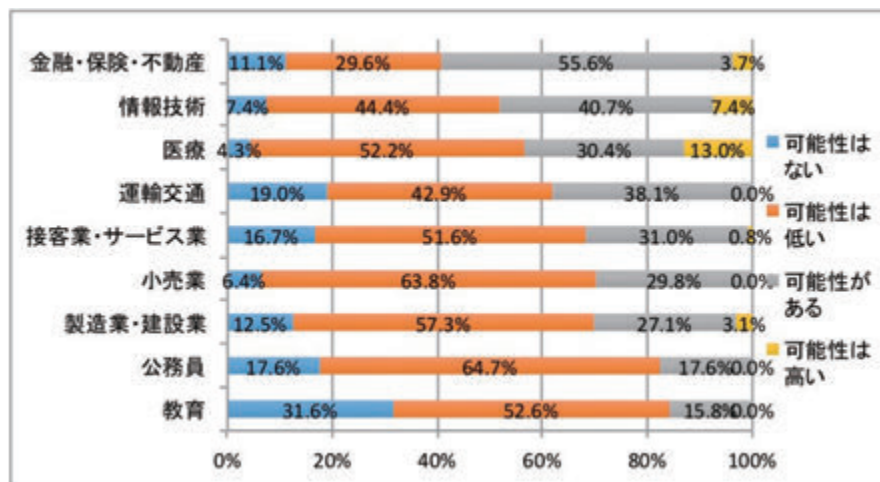


図 4.4.3 現職による「あなたの仕事が奪われる可能性」

4.5 AI／ロボットと規制（問 25、問 30）

最後に、実際にAI／ロボット技術を社会に導入するにあたって、どのような社会的対応が必要かを尋ねた。

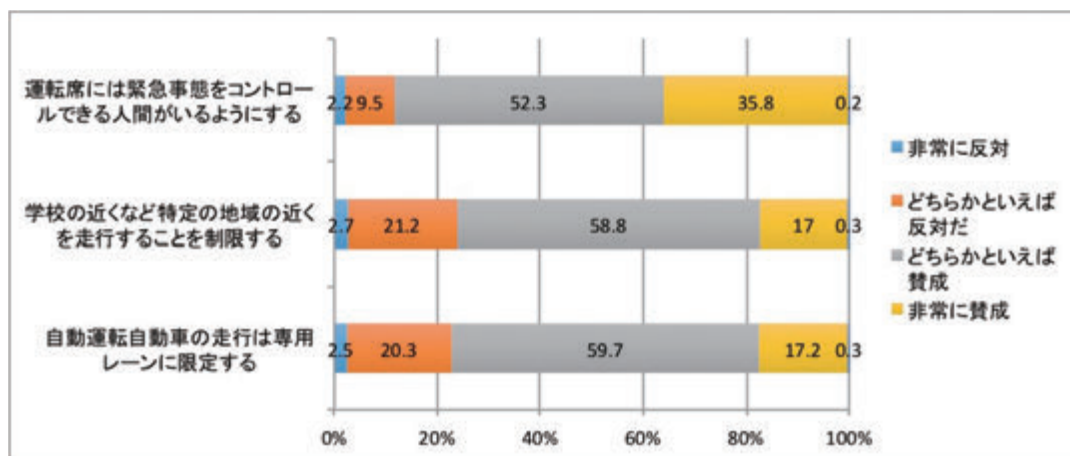


図 4.5.1 自動運転自動車に対する走行制限への賛否（%、N=600）

問 25 は、自動運転自動車について、①専用レーンでの走行、②学校の近くなど特定の地域の近くを走行することを制限する、③運転席に緊急事態をコントロールできる人間がいるようにする、などの規則や規制を課することに対する賛否を尋ねた。結果を図*に示す。いずれの規制についても、「非常に賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が8割前後に達しており、現代日本人が、自動運転自動車の技術に対してまだ警戒心が高いことを示している。

では、もっと一般に、ロボットやコンピュータが人間の仕事の大部分を実行できるようになった場合、人びとはどのような政策を求めているだろうか？問 30 の集計結果を図 4.5.2 に示す。

これによれば、現代日本人が最も高い割合で支持するのは、「ロボットの仕事を限定する」というもので、この政策を支持するものは約8割にも達する。「ベーシックインカム」や「別料金で人間による対応を求められる」についても、約6割の人が支持している。「ロボットにやらせた方がよい仕事も、あえて人間にやらせる」を支持するのは3割程度にすぎない。

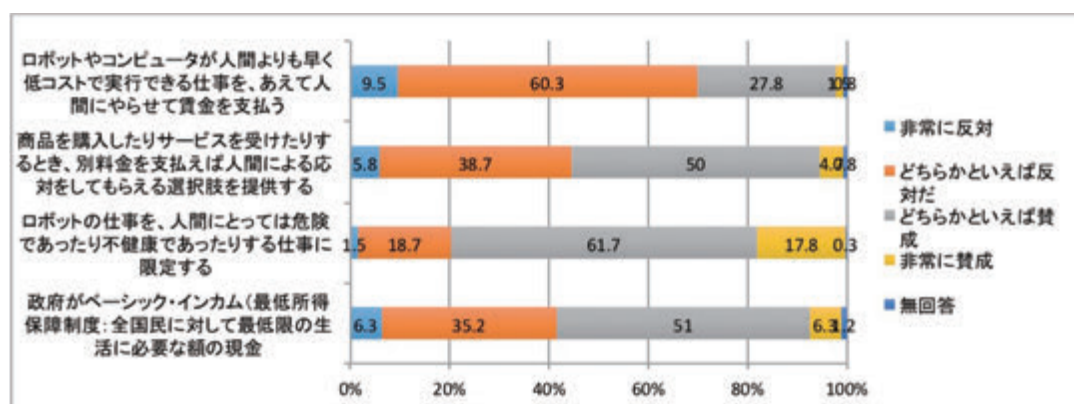


図 4.5.2 ロボットやコンピュータが人間の仕事を代替するようになったとき、どのような政策を望むか（％、N=600）

現状の日本では、メディアなどで多く取りあげられているにもかかわらず、IoT、AI やロボット技術に関する知識は薄く、評価や期待は低い。一方、産業面では、世界との競争もあり、開発や社会実装を進める動きが急である。このようにバランスを欠いた状況は、技術にとっても社会にとっても望ましいものではない。

近年、国連はSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）を発表した。これは、「2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現

するための 17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として置き去りにしない (leave no one behind) ことを誓っている。

本調査分析からは、ロボットや IoT の進んだ未来社会の評価には「知識」や「イデオロギー」が大きく影響することがわかった。いいかえれば、正確な知識を持ち、客観的な視座をふまえて、今後、一般の人々を巻き込んだ幅広い議論が望まれる。

謝辞：本研究は、平成 30 年度学習院大学計算機センター特別プロジェクト（「IoT、AI の時代における社会的態度形成」代表者・遠藤薫）として実施されたものの一部である。

<補足資料> 質問票と単純集計結果

日本人のメディア利用に関する実態調査 (N=600)

問1 インターネット、テレビ、新聞のそれぞれから得られる情報を、全般的にみると、信頼でき正確な情報は、どの程度あると思いますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	まったくない	一部	半々くらい	大部分	全部	無回答
インターネット	3.8	23.7	55.5	15.2	1.8	-
テレビ	1.0	12.8	42.2	40.8	3.2	-
新聞	2.8	9.2	26.5	56.2	5.3	-

問2 あなたはインターネットを利用していますか。最もよくあてはまるものに1つ○をつけてください

1. 現在利用している 89.3	3. 3カ月以上前には使っていたが、いまは使っていない 3.2
2. ここ3カ月以内に使うのをやめた -	4. 使ったことはない 7.5

【問2で「3」または「4」と答えた方のみ】(N=64)

問3 インターネットを利用しない主な理由は何ですか。最もよくあてはまるものに1つ○をつけてください。

1. 興味がない 39.1	5. 利用料金が高すぎるから／利用料金が払えない 3.1
2. 利用価値がない 6.3	6. 時間がない／忙しすぎる 10.9
3. どうやって使うかわからない／機器の設定などがわからない 21.9	7. インターネット接続が利用できない地域である -
4. インターネットに接続する機器がない 12.5	8. その他() 6.3

【問3にご回答の方は、7次の問18にお進みください】

【問2で「1」または「2」を答えた方のみ、問4以降にお進みください】

問4 過去1カ月間で、あなたは次のような形で、インターネットを利用しましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(N=536)

1. 携帯電話会社の回線経由で、携帯電話・スマートフォンを用い、インターネットを利用した 91.0
2. 1.以外の接続手段で、インターネットを利用した(利用機器を問いません) 45.0
3. 友人・隣人の家で、その家のインターネット接続回線を利用して、インターネットを利用した(利用機器を問いません) 3.9
4. 職場／学校／大学のインターネット接続を利用した 34.9
5. 公衆WiFi(ワイファイ)スポットを使って、インターネットを利用した 20.7
6. インターネットカフェ、公共図書館、共用インターネット利用施設に行つて、インターネットを利用した 3.9
7. 該当するものはない 0.2
8. 無回答 2.6

問 5 あなたは、インターネットを利用する(例えば、検索、電子メール、SNS 利用など)ときに、次の機器をどの程度使いますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。(N=536)

	1日数回	日に1回	週に1回 ～数回	月に1回 ～数回	月に1回 未滿	利用したこと はない	無回答
1)パソコン	32.3	7.5	14.7	9.5	17.2	16.2	2.6
2)スマートフォン、携帯電話	83.4	4.5	5.2	1.9	0.9	3.4	0.7
3)タブレット	11.8	3.7	8.0	6.0	12.3	52.6	5.6
4)テレビ	15.7	3.9	3.4	3.0	6.7	61.9	5.4

(以下の各問で「インターネット」という場合、パソコン、携帯電話・スマートフォン、タブレット、いずれによるインターネット利用も含まれます。)

問 6 あなたはいつからインターネット(携帯電話のi-mode サービスも含まれます)を利用しはじめましたか。1年に満たない場合には、開始した月も記入してください。

西暦()年 (1年に満たない場合には)[]月 (N=536)								
1969年 以前	1970～ 1979年	1980～ 1989年	1990～ 1999年	2000～ 2009年	2010～ 2014年	2015～ 2017年	2018年	無回答
-	-	0.6	22.8	53.7	13.8	5.4	0.4	3.4

問 7 あなたは、次のネットサービス利用やネット上での行動を、どの程度していますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。(N=536)

	1日 数回	日に 1回	週に1 回～数 回	月に1 回～数 回	月に1 回未 滿	利用し たこと はない	無回 答
Twitter(ツイッター)	14.4	4.7	5.6	2.8	6.3	65.5	0.7
LINE(ライン)	71.3	6.3	7.3	2.1	1.3	11.0	0.7
Instagram(インスタグラム)	16.8	4.5	6.5	3.4	4.9	63.1	0.9
Facebook(フェイスブック)	10.3	4.7	9.7	5.2	10.1	59.5	0.6
ブログの閲覧	11.6	7.3	12.3	9.9	15.5	42.4	1.1
匿名電子掲示板(5ちゃんねる/2ちゃんねるなど)の閲覧	2.2	1.5	3.2	6.2	19.2	67.0	0.7
匿名電子掲示板での書き込み	0.7	0.6	0.6	1.3	6.5	89.4	0.9
ネットニュースサイト・アプリでの記事の閲覧	40.5	17.9	15.9	4.5	4.3	16.0	0.9
ネットニュースサイト・アプリのコメント欄の閲覧	12.3	7.8	15.3	7.5	8.4	47.8	0.9
ネットニュースサイト・アプリのコメント欄への書込	1.5	0.9	2.4	1.5	5.0	87.3	1.3
ネットのいわゆる「炎上」の目撃	0.4	1.5	4.5	5.0	10.4	77.6	0.6
ネットのいわゆる「炎上」への参加	-	-	0.2	0.6	1.1	97.4	0.7
ネットのいわゆる「拡散」(炎上だけでなく、面白いこと、「バズる」、呼びかけへの呼応も)への参加	0.2	-	1.3	1.9	3.0	92.9	0.7
まとめサイトの閲覧	6.9	5.2	11.8	8.8	9.0	57.8	0.6

商品・サービスへの評価・レビューやコメントの書込	1.9	2.6	7.5	10.6	16.2	60.8	0.4
--------------------------	-----	-----	-----	------	------	------	-----

問 8 ニュース、スポーツの結果、映画の上映時間など、日常生活でネット検索をよく行う人もいれば、しない人もいます。あなたは、次のような目的で、インターネットをどの程度利用しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) (地域、国内、国際の) ニュースを知る	43.5	26.1	14.6	5.4	4.9	5.6	-
2) 旅行の情報を得る	3.0	2.4	11.6	22.4	41.2	19.4	-
3) 求人情報を得る	1.5	0.7	4.1	6.0	29.1	58.2	0.4
4) 健康についての情報を得る	1.5	3.2	17.9	24.3	28.5	24.4	0.2

問 9 学校の授業のためや、学習のためにインターネットを利用する人がいます。あなたは、次のようなことを、インターネットでどの程度しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) 言葉の意味・定義を調べる	13.6	11.8	32.8	20.7	11.8	9.0	0.4
2) 事実を調べたり、確認する	15.1	11.9	32.5	18.8	11.0	10.3	0.4
3) 学校の授業や勉強に関連する情報を得る	5.0	5.6	13.6	6.5	13.8	54.7	0.7
4) 学位を得たり、職場で必要のため、遠隔授業を受ける	2.1	1.3	2.1	2.1	6.0	85.8	0.7

問 10 インターネットでコミュニケーションしたり、コンテンツを創作したり、共有したりする方法がいろいろあります。あなたは次のようなことをどの程度しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) メールを利用する	49.8	10.6	16.4	9.1	7.8	6.0	0.2
2) ダイレクトメッセージを送る・チャットをする	11.8	3.9	8.2	6.3	14.7	54.1	0.9
3) インターネットで電話をかけたり、受けたりする	12.7	6.0	18.8	10.3	12.9	38.8	0.6
4) 自分の作成したコンテンツ(映像、写真、文章など)をネットに投稿(アップ)する	2.1	2.6	6.5	8.8	11.6	68.5	-
5) 他人が作ったリンクやコンテンツをシェアしたり転送(リツイート)したりする	2.4	1.5	6.9	6.2	12.3	70.7	-

問 11 娯楽のためにゲームをしたり、音楽を聴いたりすることについてうかがいます。あなたは、次のようなことを、インターネットでどの程度しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) ネットでゲームをする	30.2	6.3	10.3	4.5	13.6	34.5	0.6
2) ネットで音楽を聴いたりダウンロードしたりする	17.9	7.3	15.7	13.8	16.8	28.2	0.4
3) 動画配信サイト(Netflix, Amazon Prime Video など)を見たりダウンロードしたりする	7.6	8.0	14.7	8.2	12.7	48.5	0.2
4) 動画投稿サイト(YouTube など)を見たりダウンロードしたりする	21.8	11.8	21.8	14.2	10.4	19.8	0.2
5) インターネット放送局(AbemaTV など)の番組を見る	3.4	3.7	6.3	7.6	14.0	64.6	0.4
6) テレビ見逃し配信サービス(TVer, FOD など)で番組を見る	0.9	1.7	7.3	6.9	13.1	70.0	0.2
7) 宗教・スピリチュアル関連のコンテンツを見る	-	0.6	0.9	1.9	3.7	92.5	0.4
8) ネットでギャンブルしたり、宝くじを購入する	-	0.2	1.9	1.5	3.0	93.5	-
9) アダルト系コンテンツを見る	0.6	1.1	3.7	3.5	7.1	83.6	0.4
10) マッチングアプリ・サイトを見る	0.4	0.2	0.6	0.9	1.3	96.1	0.6

問 12 あなたは、次の 1)から 5)で述べられていることについて、それぞれ、あなたはどの程度あてはまりますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	まああてはまる	あてはまる	無回答
1) ダウンロードしたファイルの開き方を知っている。	14.2	8.4	14.0	28.4	35.1	-
2) オンライン検索するのに最適のキーワードを考えるのは簡単である。	17.2	10.1	22.9	28.0	21.6	0.2
3) インターネット上のコンテンツをシェア(共有)する相手を変えるやり方を知っている。	40.3	16.6	18.1	10.4	13.6	0.9
4) コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている。	46.5	16.8	18.1	7.8	10.4	0.4
5) アプリをスマートフォンなどのモバイル機器にダウンロードするやり方を知っている。	21.1	7.8	12.9	24.1	34.0	0.2

問 13 インターネットでバンキングやショッピングなど、様々な取引をすることについてお聞きします。あなたは、次のようなことを、インターネットでどの程度しますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1日数回	日に1回	週に1回～数回	月に1回～数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
1) 製品についての情報を得る	8.0	6.9	31.5	25.4	16.4	11.6	0.2
2) 商品を購入する	0.7	2.1	12.9	33.6	31.2	19.6	-

3) 旅行の予約をする	0.2	0.2	1.7	6.5	48.5	42.7	0.2
4) 請求書の支払いをする／銀行オンラインサービスを利用する	0.7	0.6	4.7	15.5	15.3	63.2	-
5) 株式、債券などの金融取引をする	0.4	0.4	2.1	3.2	6.0	87.9	0.2
6) 商品の価格やサービスの料金を比較する	1.5	2.1	16.2	23.5	24.8	31.7	0.2
7) ネットでモノや情報を売る	0.7	0.9	4.5	5.2	12.5	76.1	-

問 14 あなたは、インターネットで、政治分野のニュース、それに関連した情報、議論に接するとき、次のようなことがどの程度ありますか。最もよくあてはまるものに1つずつ○をつけて下さい。

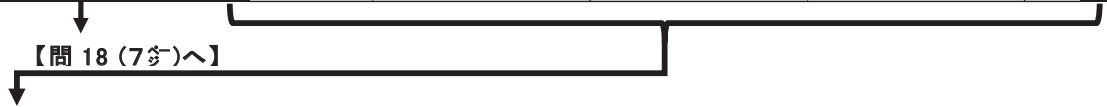
	よくある	しばしばある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答
1) 自分には同意できない情報・報道・意見に目を通すこと	5.0	13.2	28.5	29.5	23.5	0.2
2) あなたが普段使う情報源とは異なる情報源で調べてみること	2.8	8.4	23.9	36.9	28.0	-
3) ある政治的情報・報道・意見に接したとき、ネット上の別な情報源を探し、正しいかどうかチェックすること	2.2	8.0	24.6	30.4	34.5	0.2
4) 自分の考えに反する意見、議論を見て、不快感や怒りを感じる	2.4	5.2	25.7	34.0	32.6	-
5) ネットの情報源で、自分の考えが正しいことを改めて認識すること	2.4	6.7	31.0	30.8	28.9	0.2
6) 自分の考え方に関係なく、本当のことを知ろうとして、様々な情報源を調べる	5.4	11.9	33.0	25.2	24.3	0.2
7) 自分が関心のある政治的問題・争点について、より多くを知るために、いろいろな情報源でニュースに接すること	3.2	11.2	27.1	29.5	29.1	-
8) ネットで検索していて、政治的問題・争点について、自分の考えを変えるような情報、議論に出会うこと	0.9	3.2	22.0	40.7	33.2	-

問 15 あなたは、過去1年間に、次のような経験がありますか。それぞれについて、「ある」「ない」いずれかに○をつけてください。

	ある	ない	無回答
1) コンピュータウイルスに気づいた(未然に検知、感染したかを問わず)	19.2	80.6	0.2
2) ウェブサイトで、商品表示・説明が事実とは異なる偽ったものを購入した	7.1	92.5	0.4
3) インターネットを利用することで、クレジットカードの詳細な情報を盗まれた	1.1	98.7	0.2
4) ネットで、あなたの銀行情報や個人情報を提供するよう、誰かが連絡してきた	5.2	94.6	0.2
5) アダルトサイトに、誤ってアクセスした	11.9	87.9	0.2
6) ネットでのいじめ、ハラスメントを受けた	0.9	98.9	0.2
7) ネットで、フェイクニュース(虚偽の情報で作られたニュース)を見た	14.4	85.4	0.2

問 16 あなたは、過去1年間で、インターネットで、プライバシーを侵害されたことがありますか。また、あったとすると、それはどの程度問題だったでしょうか。1～5のうち最もよくあてはまるものに1つ○をつけてください。

過去1年で、侵害されたことはない	侵害はされたが、実際上問題はなかった	侵害されたが、たいした問題ではなかった	侵害され、かなり問題が起きた	侵害され、深刻な問題が起きた	無回答
96.3	2.4	0.6	0.2	0.4	0.2



【問 17 は、問 16 で、「2」「3」「4」「5」を回答された方のみお答えください。(1の回答者は除く)】

問 17 プライバシー侵害がどのようなことで問題となったでしょうか。次の選択肢から、あてはまるものにすべて○をつけてください。(N=19)

1. 金銭的・経済的損害(例:お金を失った)	15.8
2. 恥ずかしい・メンツを失う(例:他人に知らないでほしかったあなた自身のことを知られる)	10.5
3. なりすまし(例:誰かがあなたになりすます、あなたの身分証明を盗み取る)	5.3
4. 人間関係(例:友人関係、恋愛関係が危うくなる)	15.8
5. 仕事(例:あなたの仕事、キャリアが影響を受ける)	15.8
6. 心理的被害(例:ネットいじめ、からかいの対象になる)	31.6
7. その他	26.3
8. 無回答	-

【問 18 からは、再び、全員におたずねします】 (N=600)

問 18 あなたはふだん1日平均で、以下の行動をする時間はどの程度ありますか。それぞれおおよその時間を記入してください(ふだんやらないかたは、「ない」に○をつけてください)。

	ふだん (1日平均=分)	無回答 (%)
1) テレビを見る	163.5	0.2
2) テレビでニュースを見る	52.6	0.3
3) 新聞を読む(インターネットは含まない)	17.0	0.3
4) インターネットを利用する(携帯電話やスマートフォンで)	82.4	0.7
5) インターネットを利用する(パソコンやタブレットで)	46.7	0.2
6) インターネット上でニュースを見たり読んだりする	23.8	0.5
7) SNS(LINE、Facebook、Twitter、Instagram など)を利用する	41.2	0.2

問 19 あなたと普段付き合いのある人たち(学校の友人や知人、職場の同僚、近所の人々など)についてお尋ねします。次のそれぞれの文が、それぞれの人々にどの位あてはまるか、想像し、最もよくあてはまるものを1つずつ選んで、○をつけてください。

	全くあてはまらない	あてはまらない	どちらかと言うとあてはまらない	どちらとも言えない	どちらかと言うとあてはまる	あてはまる	非常によくあてはまる	無回答
1) 彼ら(あなたと普段付き合いのある人たち)には、人々と新しく知り合いになる機会がたくさんある	3.7	8.3	13.0	40.0	17.2	14.8	2.8	0.2
2) 彼らは初対面の人と会話を交わすことがよくある	3.7	7.8	13.8	38.7	22.2	11.8	1.8	0.2
3) 彼らには、新しい友人を見つける機会があまりない	4.8	11.7	20.0	43.2	14.0	5.2	0.7	0.2
4) 彼らにとっては見知らぬ人と会話することはそうあることではない	4.8	13.2	19.5	40.5	15.0	6.5	0.3	0.2
5) 彼らが新しい人たちと出会うのは簡単なことだ	3.2	6.2	15.3	42.7	18.5	11.7	2.3	0.2
6) 彼らは、ふだんどんな人と付き合うかを、自分の好みで選ぶことができる	3.5	6.5	9.8	40.8	22.8	13.8	2.5	0.2
7) もし、現在所属している集団が気に入らなければ、彼らは新しい集団に移っていくであろう	3.8	8.3	13.2	43.8	19.0	9.8	1.8	0.2
8) 彼らにとって、付き合い相手を自由に選べないことはよくある	5.2	11.5	18.5	42.3	15.3	5.5	1.0	0.7
9) たとえ所属する集団に満足していなかったとしても、彼らはいそいでそこに居続けることになる	4.2	7.0	12.8	46.3	20.8	6.5	1.8	0.5
10) 彼らはどの集団や組織に所属するかを自分の好みで選ぶことができる	3.8	5.0	13.3	40.0	26.0	9.7	2.0	0.2
11) たとえ現在の人間関係に満足していなくても、彼らはそこに留まり続けるしかないことがよくある	4.0	10.8	15.5	42.0	22.3	3.8	1.3	0.2
12) たとえ、現在所属する集団から離れたいと思っても、彼らはそこに留まらざるをえないことがよくある	4.2	12.2	14.3	43.3	20.0	4.2	1.7	0.2

問 20 以下のおのおの文について、あなたご自身がそのようなことをする可能性はどのくらいあると思いますか。それぞれについて、最もよくあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

	全く可能性がない	可能性はない	どちらかと言うと可能性はない	どちらとも言えない	どちらかと言うと可能性はある	可能性はある	非常に可能性はある	無回答
1) 友だちと自分の食べ物の好みが違うと言うこと	3.8	5.2	11.2	22.7	21.0	25.3	10.5	0.2

2) 人々から尊敬されている有名な人を批判すること	6.7	13.0	21.5	33.8	14.8	8.0	1.8	0.3
3) 安定した仕事を捨てて、楽しい仕事を始めること	11.2	18.8	24.3	27.3	8.2	8.5	1.3	0.3
4) 親戚や友達がいらない、遠く離れた町に引っ越すこと	19.7	27.7	17.3	20.3	6.0	6.7	2.0	0.3
5) 仕事の会合で、他の人たちとは異なるあなたの考えを主張すること	6.7	10.0	19.7	34.2	16.0	11.2	2.0	0.3

問 21 次の 1) から 15) で述べられていることについて、それぞれ、あなたはどの程度同意しますか。「そうは全く思わない」を1、「強くそう思う」を5として、1～5の中から1つずつ○をつけてください。**インターネットを使っていない方はイメージでお答えください。**

	そう 思わない	あまり そう思わ ない	どちらと もいえな い	まあ そう思う	そう思う	無回答
1) プライバシーはもはやないのが現実だ	7.0	24.8	31.2	29.5	7.2	0.3
2) 私のプライバシーを政府がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	21.0	42.8	24.0	9.5	2.3	0.3
3) 私のプライバシーを企業がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	19.8	32.2	26.7	17.8	3.3	0.2
4) 私のプライバシーを他人がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	18.2	32.8	30.2	15.3	3.3	0.2
5) わたしは、ネット上で自分のプライバシーを守ることに積極的である	10.5	22.8	35.7	23.3	7.2	0.5
6) ネット上のプライバシーに関する不安が大げさに騒がれ過ぎている	8.5	21.2	43.2	22.8	4.2	0.2
7) わたしは何ら隠すものはない	14.3	24.2	37.5	18.8	4.5	0.7
8) インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる	5.8	13.5	38.0	34.5	7.8	0.3
9) 携帯電話やスマートフォンを使っているときは、たとえ友人でも画面を見られたくない	4.7	24.7	26.3	30.2	13.7	0.5
10) 友人との会話を知らない人に聞かれたくない	3.5	21.3	24.7	34.2	16.2	0.2
11) ふだん持ち歩いているカバンの中身は、たとえ友人でも見られたくない	6.7	27.7	24.3	29.7	11.3	0.3
12) 自分や家族の収入の額は、他人には知られたくない	3.5	10.7	20.3	41.3	23.7	0.5
13) インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の詳細なプロフィールを公開している	50.2	24.7	16.7	6.2	2.2	0.2
14) 自分の個人情報(氏名、職業、年齢など)の多くは、インターネットで見ることができる	45.8	25.0	18.5	8.3	2.2	0.2

15) インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の個人情報を書きこんでもよい	54.0	24.7	16.8	3.5	0.8	0.2
---	------	------	------	-----	-----	-----

問 22 次の 1)から 9)で述べられていることについて、それぞれ、あなたはどの程度同意しますか。最もよくあてはまるものに 1 つずつ○をつけてください。インターネットを使っていない方はイメージでお答えください。

	そう 思わな い	あまり そう思 わない	どちらと もいえな い	まあ そう思 う	そう思 う	無回答
1) 一般的に言って、政治について自分の意見を言うのは気分がよいことである	14.5	28.7	41.3	12.8	2.5	0.2
2) インターネットでは、政治についてどのような考えを表明しても安全である	21.5	43.2	29.3	5.3	0.5	0.2
3) インターネットでは、人々は自由に政府を批判すべきだ	13.8	27.7	38.8	15.5	3.7	0.5
4) 極端な意見であっても、インターネットでは自分の意見を表明することは許される	14.7	32.2	34.5	15.3	2.8	0.5
5) 政府は、インターネットをもっと規制すべきである	10.0	21.8	42.8	18.3	6.8	0.2
6) インターネットの利用によって、一般の市民が政治に対して、より大きな力をもつようになる	4.8	20.3	44.7	25.7	4.2	0.3
7) インターネットの利用によって、一般の市民が行政に対してもっと発言するようになる	4.2	16.8	42.2	32.0	4.7	0.2
8) インターネットの利用によって、一般の市民が政治をよりよく理解できるようになる	4.2	16.8	44.2	31.2	3.2	0.5
9) インターネットの利用によって、政府や自治体の役人が、一般の市民にもっとサービスをしてくれるようになるだろう	9.5	25.0	48.7	15.2	1.3	0.3

問 23 あなたは、印刷物(新聞、雑誌、書籍)、テレビ、ラジオのマスメディア(ネットでの記事・書籍・番組は除く)で、政治分野のニュース、それに関連した情報、議論に接するとき、次のようなことがどの程度ありますか。最もよくあてはまるものに 1 つずつ○をつけて下さい。

	よく ある	しばしば ある	ときどき ある	あまりな い	全く ない	無回 答
1) 自分には同意できない情報・報道・意見に目を通すこと	4.2	16.8	38.5	32.7	7.8	-
2) あなたが普段使う情報源とは異なる情報源で調べてみること	1.0	7.7	27.7	50.0	13.7	-
3) ある政治的情報・報道・意見に接したとき、別な情報源(印刷物、マスメディア)で、正しいかどうかチェックすること	2.0	7.0	24.3	48.7	17.8	0.2
4) 自分の考えに反する意見、議論を見て、不快感や怒りを感じる	1.7	10.0	33.3	42.3	12.7	-
5) 主要なニュース情報源(新聞、テレビ報道番組など)で、自分の考えが正しいことを改めて認識する	1.0	8.0	41.2	39.3	10.3	0.2
6) 自分の考え方に関係なく、本当のことを知ろうとして、様々な情報源を調べる	3.2	13.7	30.3	39.8	12.8	0.2
7) 自分が関心のある政治的問題・争点について、より多くを知るために、いろいろな情報源でニュースに接する	2.0	10.7	34.0	40.8	12.3	0.2

8) マスメディアの情報に接して、政治的 問題・争点に関する自分の見解が変わること	1.0	5.7	32.7	47.5	13.0	0.2
--	-----	-----	------	------	------	-----

問 24 あなたは AI(人工知能)やロボット技術についてよく知っていますか。最もよくあてはまるものに 1 つ○をつけてください。

1. よく知っている 2.0 2. まあ知っている 30.5 3. あまり知らない 58.3 4. まったく知らない 8.2 5. 無回答 1.0

問 25 自動運転自動車について次の規則や規制を課することに賛成しますか。次の 1) から 3) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	非常に反対	どちらかといえば反対だ	どちらかといえば賛成	非常に賛成	無回答
1) 自動運転自動車の走行は専用レーンに限定する	2.5	20.3	59.7	17.2	0.3
2) 学校の近くなど特定の地域の近くを走行することを制限する	2.7	21.2	58.8	17.0	0.3
3) 運転席には緊急事態をコントロールできる人間がいるようにする	2.2	9.5	52.3	35.8	0.2

問 26 介護ロボットが普及したら、その結果として以下のような事態が起こる可能性が高いと思いますか。次の 1) から 6) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	可能性はない	可能性は低い	可能性はある	非常に可能性が高い	無回答
1) 若い人たちが高齢の親族の介護について今ほど心配せずにすむようになる	4.5	30.3	58.3	6.8	-
2) 社会は高齢者介護のための経費を節約できるようになる	5.5	38.5	49.8	6.0	0.2
3) 高齢者たちは介護ロボットを人間の友人のように遇するようになる	9.8	48.3	38.2	3.7	-
4) 高齢者たちは現在よりも孤独を感じるようになる	2.3	29.2	56.8	11.5	0.2
5) 高齢者たちは現在よりも自立感や自足感を感じるようになる	4.5	51.0	39.8	4.0	0.7
6) 介護ロボットを使うのは、人間の介護者を雇う余裕のないものだけになる	6.3	49.0	40.2	4.3	0.2

問 27 ロボットやコンピュータが人間の仕事の大部分を実行できるようになったら、結果として起こりそうなことは次のうちどれですか。次の 1) から 7) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	可能性はない	可能性は低い	可能性がある	非常に可能性が高い	無回答
1) 人びとは自分の人生の意義を見いだすのが困難になる	5.0	33.2	55.3	6.5	-
2) 高齢者や障がい者は今より自立して生活できるようになる	3.7	34.7	56.8	4.8	-
3) 人々は仕事よりも、人生で本当に重要なことにもっと集中することができるようになる	4.7	46.3	46.0	2.5	0.5
4) 経済が全体として効率的になる	5.0	34.0	55.2	5.7	0.2
5) 経済は人間のために多くの新しい、より賃金の高い仕事を創造する	5.5	53.0	37.5	3.5	0.5
6) 機械が主に人間にとって魅力のない仕事をやってくれるので、人間は仕事をより意味深く充実したものと感じるようになる	5.5	51.8	40.2	2.2	0.3
7) 貧富の差が拡大する	1.2	16.0	61.3	21.2	0.3

問 28 あなたが活着ている間に、次のような仕事がほとんどロボットやコンピュータに置き換えられる可能性が高いと思いますか。以下について、それぞれあなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	可能性はない	可能性は低い	可能性がある	非常に可能性が高い	無回答
1) ソフトウェア・エンジニア	4.7	27.2	55.3	12.5	0.3
2) 法律関連業務	10.2	56.8	26.7	5.7	0.7
3) 看護師	14.8	53.3	27.8	4.0	-
4) 建設作業員	8.8	32.7	49.7	8.7	0.2
5) ファストフード店員	3.7	20.3	58.7	17.3	-
6) 教師	18.8	59.5	18.8	2.8	-
7) 保険金給付支払い手続き担当者	6.8	29.8	48.2	15.2	-

問 29 あなたが活着ている間に、あなた自身の仕事がほとんどロボットやコンピュータに置き換えられる可能性が高いと思いますか。あなたのお考えに最も近いものに 1 つ○をつけてください。

1. 可能性はない	15.0	2. 可能性は低い	48.2		
3. 可能性がある	31.5	4. 非常に可能性が高い	2.8	無回答	2.5

問 30 ロボットやコンピュータが人間の仕事の大部分を実行できるようになった場合、あなたは次の政策に賛成しますか。次の 1) から 4) までのそれぞれあなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	非常に反対	どちらかといえば反対だ	どちらかといえば賛成	非常に賛成	無回答
1) 政府がベーシック・インカム(最低所得保障制度:全国民に対して最低限の生活に必要な額の現金を定期的に支給)を実施する	6.3	35.2	51.0	6.3	1.2
2) ロボットの仕事を、人間にとっては危険であったり不健康であったりする仕事に限定する	1.5	18.7	61.7	17.8	0.3
3) 商品を購入したりサービスを受けたりするとき、別料金を支払えば人間による対応をしてもらえる選択肢を提供する	5.8	38.7	50.0	4.7	0.8
4) ロボットやコンピュータが人間よりも早く低コストで実行できる仕事を、あえて人間にやらせて賃金を支払う	9.5	60.3	27.8	1.5	0.8

問 31 あなたにとって次のような未来は、望ましい未来ですか、それとも不安に満ちた未来ですか。次の 1) から 4) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	大変不安だ	どちらかといえば不安だ	どちらかといえば望ましい	大変望ましい	無回答
1) 自動運転技術の開発	5.7	32.2	47.2	15.0	-
2) 人に替わって求職者の採用評価を行う AI 技術の開発	14.3	61.5	20.3	3.7	0.2
3) 今人間がしている仕事の多くをロボットや AI が代替する未来	12.8	59.5	24.0	3.7	-
4) 高齢者の介護をするロボットの開発	7.2	28.7	47.2	17.0	-

問 32 2030 年には次の予測は実現しているでしょうか。次の 1) から 4) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1 つずつ○をつけてください。

	そうは思わない	あまりそう思わない	まあそう思う	そう思う	無回答
1) 医師はほとんどの病気について、診断と治療をコンピュータに依存するようになる	11.0	47.8	36.0	5.2	-
2) ほとんどの商店あるいは小売業は完全自動化され、顧客と店員の間に対面的な対応はほとんどなくなる	9.5	56.5	31.3	2.5	0.2
3) 都市におけるほとんどの輸送は、人間に代わって、ロボットやドローンが行うようになる	7.5	45.2	42.7	4.7	-
4) 人々が一般的な製品を購入するとき、3D プリンタを使って、家で自分で作るようになる	22.2	61.0	15.0	1.8	-

問 33 AIによる求職者の評価は、以下の点で、人間に比べて優れているでしょうか。次の1)から4)までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに1つずつ○をつけてください。

	人間より劣っている	人間と同じレベル	人間より優れている	無回答
1) 仕事にふさわしい能力をもった人材の採用	34.5	41.5	23.3	0.7
2) 企業文化になじむ人材の採用	53.8	36.0	9.5	0.7
3) 多様な属性や経歴をもった人のなかから仕事にふさわしい人を選ぶ	33.5	38.8	26.8	0.8
4) 一般的でない経歴を持った人に仕事の機会を提供する	37.5	39.8	21.8	0.8

問 34 以下に述べられていることについて、それぞれ、あなたほどの程度同意しますか。次の1)から12)までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに1つずつ○をつけてください。

	同意しない	さほど同意しない	ある程度同意する	同意する	無回答
1) 私は、保守(右派)かリベラル(左派)かといわれれば、保守である	12.8	30.2	46.5	9.3	1.2
2) 私は、保守(右派)かリベラル(左派)かといわれれば、リベラルである	22.8	55.2	18.7	2.0	1.3
3) 普段から、自民党を支持している	23.0	41.3	29.2	5.7	0.8
4) 政治に関心がある	17.2	39.5	34.8	8.3	0.2
5) 政治のことよりも自分の生活のほうが大事だ	3.8	10.5	51.8	33.7	0.2
6) われわれが少々騒いだところで政治はよくなるものではない	3.8	13.2	49.2	33.7	0.2
7) 政治のことは難しすぎて自分にはよくわからない	8.2	28.0	47.7	15.7	0.5
8) 社会的弱者、少数者は、立場の弱さを盾にとって、権利を主張し、利益を得ている	8.3	51.5	32.0	7.3	0.8
9) 人を助ければ、今度は自分が困っている時に誰かが助けてくれる	6.3	32.7	49.2	11.5	0.3
10) 国、民族の違う人とは、うまくつきあえない	15.0	58.5	21.5	4.7	0.3
11) 日本人であることに誇りを感じる	1.8	18.3	54.0	25.5	0.3
12) 日本のマスコミの情報は偏っていて信用できない	2.7	39.7	45.5	11.8	0.3

問 35 ある人の行為が倫理的に正しいか間違っているかを判断するとき、次のような判断材料はあなたの考え方にどの程度関係しますか。「全く関係がない(善悪の判断に全く無関係)」～「きわめて関係がある(善悪の判断に最も重要なものの1つ)」で、最も適切な選択肢を選び、それぞれ1つずつ○をつけてください。

	全く関係がない	あまり関係がない	わずかに関係がある	ある程度関係がある	とても関係がある	きわめて関係がある	無回答
1) 誰かが感情面・精神面で苦痛を受けたかどうか	1.7	11.2	20.7	39.7	21.2	5.2	0.5

2) 一部の人が他の人々とは違う扱いを受けたかどうか	1.5	12.3	23.3	41.5	16.5	4.3	0.5
3) 行動がその人の属する国への愛に基づいていたかどうか	6.7	32.3	27.7	26.2	5.5	0.7	1.0
4) 権威への尊重を欠いていたかどうか	3.8	29.2	29.5	27.7	7.5	1.2	1.2
5) 清廉さや礼儀・品位の基準に反していたかどうか	1.8	16.0	25.0	39.7	13.3	3.3	0.8
6) 弱い人や傷つきやすい人に対する配慮があったかどうか	1.3	7.8	19.2	41.5	23.8	5.7	0.7
7) 不公平な行動をとっていたかどうか	1.2	7.7	16.8	39.5	25.2	9.2	0.5
8) 自分の所属する集団を裏切るような行為をしたかどうか	3.3	17.0	23.8	37.2	14.3	3.3	1.0
9) 社会の伝統に従っていたかどうか	3.5	23.2	34.7	29.0	7.7	1.2	0.8
10) きわめて不快で、人の気持ちを逆撫でするようなことをしたかどうか	1.5	8.2	17.8	40.0	24.2	7.5	0.8
11) 個人で保有している財産が尊重されていたかどうか	4.0	22.0	24.2	33.8	11.7	3.3	1.0
12) 誰もが自由に望むことをできたかどうか	1.5	15.3	24.2	38.7	13.0	6.0	1.3

問 36 あなたは、政治分野のニュース、論点、話題、政治家(候補者)、政党に関する情報を得るために、次のような人々と話したり、組織(の人)と接触したり、メディアを利用したりしますか。最もよくあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけて下さい。

	よくある	しばしばある	ときどきある	あまりない	全くない	無回答
1) 家族、友人	9.7	14.8	40.8	26.8	7.5	0.3
2) 政治家、候補者、政党のウェブサイト	1.5	4.0	12.0	41.2	39.8	0.2
3) 政治家、候補者、政党とのやりとりや、配布する情報(ウェブサイト以外)の入手	1.5	3.2	14.7	40.7	39.8	0.2
4) テレビ	11.5	22.8	42.7	15.7	7.3	-
5) ラジオ	2.0	4.7	18.0	32.0	43.2	0.2
6) 印刷された新聞、雑誌	4.2	14.0	34.7	26.3	20.8	-
7) 慈善団体、宗教団体、非営利組織	1.0	3.0	7.3	25.0	63.7	-
8) ネット検索	5.8	12.5	27.0	28.0	28.7	-
9) ネットニュースサイト・ポータル・アプリ	5.3	11.3	27.5	28.2	27.5	0.2
10) ソーシャルメディア(SNS、ブログ、掲示板、まとめサイト、動画共有サイトなど)	2.5	7.5	19.8	33.0	37.2	-

問 37 あなたは、次のような道德、価値観に関する意見についてどう思いますか。最もよくあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけて下さい。

	全く同意しない	まあ同意しない	さほど同意しない	ある程度同意する	まあ同意する	強く同意する	無回答
1) 困っている人や苦しんでいる人を思いやることは何よりも大切なことだ	0.3	0.7	2.0	31.2	42.2	23.3	0.3
2) 政府が法律を作る際の第一原則は、全ての人が平等な扱いを受けることを保証することだ	0.3	0.8	7.8	32.5	37.5	20.3	0.7
3) 私は、自分の国の歴史を誇りに思う	1.3	3.5	17.7	42.0	25.8	9.3	0.3
4) 子供たちは皆、我が国の歴史や伝統、社会的に認められた人などを敬うことの大切さを教わる必要がある	0.8	2.5	13.7	45.0	27.0	10.5	0.5
5) たとえ誰も傷つかないとしても、きわめて不快で、人の気持ちを逆なでするような行動をとるべきではない。	0.5	0.5	1.8	25.0	43.5	28.3	0.3
6) 無防備な動物を傷つける事は、人間として最悪の行動の一つだ	0.3	1.3	2.2	15.2	29.3	51.2	0.5
7) 正義とは、社会にとって必要とされる最も重要なものだ	1.3	1.7	9.7	39.5	33.5	13.5	0.8
8) たとえ家族が間違っただけをしたとしても、人は家族に忠実であるべきだ	9.0	19.0	35.8	21.5	9.8	3.8	1.0
9) 男性と女性には、それぞれ社会の中で果たすべき異なる役割がある	3.3	4.5	17.2	41.2	27.2	6.3	0.3
10) 自然の道理に反している行為は間違っている	0.7	1.5	15.5	44.8	26.7	9.8	1.0
11) たとえ個人の自由が制限されたとしても、政府は社会全体の利益につながる政策を押し進めるべきだ	7.3	13.8	33.5	31.2	10.8	2.5	0.8
12) お互いの自由を侵さない限り、自分で自分の進むべき道を選ぶ自由があるべきだ	0.3	1.0	6.0	41.7	34.3	15.8	0.8

問 38 あなたは、次のような意見についてどう思いますか。最もよくあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけて下さい。

	全くそう思わない	そう思わない	あまりそう思わない	ややそう思う	そう思う	とてもそう思う	無回答
1) 今日、多くの若者が、躊躇せず権威に反抗できるのは、素晴らしいことだ	1.7	8.8	33.0	37.5	14.5	3.3	1.2
2) 我が国が最も必要なことは規律であり、すべての人が、団結して、指導者たちに従うことだ	9.5	24.7	45.3	16.7	2.5	0.8	0.5

3) 堕胎、ポルノ、結婚に関する自然の摂理は、手遅れにならない前に、厳格に守られるべきだ	2.5	8.2	27.2	43.0	13.0	4.8	1.3
4) 未婚での性行為に問題ない	1.5	7.7	23.7	34.8	25.0	6.8	0.5
5) 私たちの社会では、いま以上に強い政府、厳格な法は必要ない	1.3	13.2	37.3	32.7	11.8	3.0	0.7
6) 犯罪についてのデータや近年の公共における無秩序をみると、私たちは、法と秩序を守りたいのであれば、問題を引き起こす人々を、もっと厳しく取り締まる必要がある	0.2	3.3	12.5	45.0	25.7	12.3	1.0

問 39 あなたは、次のような意見についてどう思いますか。最もよくあてはまるものに、それぞれ1つずつ○をつけて下さい。

	全く そう思わ ない	そう 思わな い	あまりそ う思わな い	ややそ う思う	そう 思う	とて もそ う思 う	無回 答
1) 人間の集団には、他の集団より単に劣っているものもある	1.8	8.3	39.2	35.8	10.0	3.5	1.3
2) 欲しいものを手に入れるためには、他の集団が不利になるような力を行使することも時に必要だ	6.0	20.3	48.5	20.0	3.0	1.3	0.8
3) 成功するためには、他の集団を踏み台にしなければならないときもある	5.5	16.3	40.3	30.8	5.2	1.0	0.8
4) 弱い集団は、身分相応の場所に留まるべきだ	9.7	25.0	49.2	11.8	2.2	1.0	1.2
5) 各集団間の平等は我々の理想である	1.2	7.5	25.3	47.7	15.0	2.5	0.8
6) 色々な集団に平等な条件が整えられるように、我々は可能な措置を取るべきだ	1.8	6.8	26.8	46.2	14.7	2.2	1.5
7) 出来る限り所得を平等にするよう我々は努めるべきだ	1.8	10.3	37.3	33.8	13.2	2.7	0.8
8) 我々が人々をより平等に扱えば、我々の抱える問題はより少なくなる	3.5	10.2	35.7	35.0	11.7	3.3	0.7

問 40 あなたは、保守(右派)的傾向がとても強い場合を7、リベラル(左派)的傾向がとても強い場合を1とした場合、ご自身の政治的立場がどこに位置すると思いますか。1~7の内、最も近いと考える数字をご回答ください。

リベラル(左派)的	0.7	2.2	9.5	42.2	31.7	10.7	2.0	無回答 1.2	保守(右派)的
-----------	-----	-----	-----	------	------	------	-----	------------	---------

問 41 かりに現在の日本社会全体を、以下の5つの層に分けるとすれば、あなたご自身はどれに入ると思いますか。あなたのお考えに最も近いものに1つ○をつけてください。(○は1つ)

1. 上	0.7	2. 中の上	6.8	3. 中の中	46.0
4. 中の下	37.8	5. 下	8.2	無回答	0.5

問 42 あなたの現在のお仕事についておうかがいします。あなたはふだんどのような仕事をなさっていますか。次のうち、あてはまるものに1つ○をつけてください。

- | | | | |
|---------------------------|------|-----------|-----|
| 1. フルタイム(正社員・正職員)で働いている | 45.0 | 5. 学生・生徒 | 6.5 |
| 2. フルタイム(派遣社員・派遣職員)で働いている | 4.3 | 6. 無職 | 3.5 |
| 3. パートタイム、アルバイト | 21.7 | 7. 退職している | 2.7 |
| 4. 専業主婦／専業主夫 | 10.7 | 8. その他 | 5.7 |

問 42 あなたのお仕事は次のうちどの分野ですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- | | | | | | |
|--------------|------|-----------|-----|------------|------|
| 1. 接客業・サービス業 | 21.3 | 6. 教育 | 3.2 | 11. 働いていない | 22.5 |
| 2. 医療 | 4.3 | 7. 運輸交通 | 3.7 | | |
| 3. 製造業、土木建設業 | 16.3 | 8. 公務員 | 2.8 | | |
| 4. 小売業 | 8.0 | 9. 情報、技術 | 4.7 | | |
| 5. 金融、保険、不動産 | 4.5 | 10. その他職業 | 8.7 | | |

問 43 あなたのお仕事には、次のような業務の要素が含まれていますか。 1~4 については、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | | | | |
|-------------|------|----------------|------|----------------|------|
| 1. 肉体労働 | 29.3 | 2. 管理業務 | 25.5 | 3. 直接顧客と対応する業務 | 44.3 |
| 4. データ処理/分析 | 17.3 | 5. いずれも含まれていない | 28.7 | | |

問 44 あなたが最後に在籍、または現在在学中の学校は、次のどれですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。(各種学校・専門学校は除きます)。

- | | | | |
|----------|------|--------|------|
| 1. 中学校 | 3.3 | 4. 大学 | 28.7 |
| 2. 高校 | 46.0 | 5. 大学院 | 2.0 |
| 3. 短大・高専 | 19.0 | 6. 無回答 | 1.0 |

問 45 お宅の1年間の世帯収入(税込)は、次のうちどれにあたりますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------|------|----------------------|------|
| 1. 200万円未満 | 7.0 | 5. 800万円以上～1000万円未満 | 10.2 |
| 2. 200万円以上～400万円未満 | 25.3 | 6. 1000万円以上～1200万円未満 | 4.0 |
| 3. 400万円以上～600万円未満 | 29.2 | 7. 1200万円以上～ | 2.0 |
| 4. 600万円以上～800万円未満 | 16.5 | 8. 無回答 | 5.8 |

問 46 あなたは結婚されていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

- | | | | | | |
|--------|------|------------------|------|-------------|-----|
| 1. 未婚 | 27.0 | 2. 既婚またはパートナーと同居 | 64.3 | 3. 離婚、離別、死別 | 8.2 |
| 4. 無回答 | 0.5 | | | | |